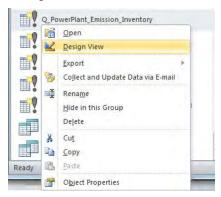
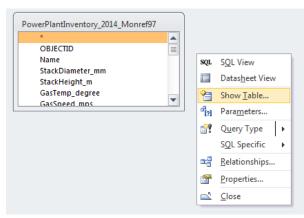
4 Access から発生源データのエクスポート

4.1 発電所

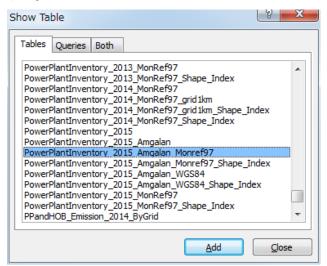
StationarySources.mdb を開き、[Q_PowerPlant_Emission_Inventory] クエリで右クリックをして、[Design View]をクリックする。



テーブルが表示されているエリアで右クリックをして、[Show Table]をクリックする。



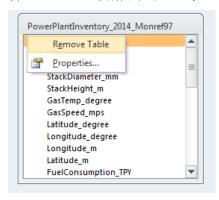
[Tables]タブの[PowerPlantInventory_2015_Amgalan_MonRef97]テーブルを選択して、[Add]をクリックする。



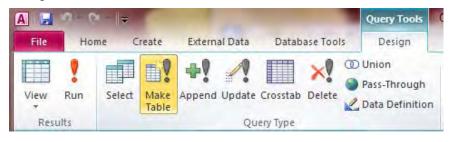
各 Field の設定は、[PowerPlantInventory_2015_Amgalan_MonRef97]テーブルの項目を適用する。

Field: Table: Sort: Show: Oriteria: or:			StackHeight_m PowerPlantInventory_2(GasTemp_degree PowerPlantInventory_2(GasSpeed_mps PowerPlantInventory_2(Latitude_m PowerPlantInventory_2(Ptn_Jan f PowerPlantInventory_2(f
Field: Table: Sort: Show: Oriteria: or:	Ptn الـan PowerPlantIn ventory_20	Ptn Feb PowerPlantIn ventory_2(Ptn_Mar PowerPlantInventory_20	Ptn_Apr PowerPlantIn ventory_20	Ptn May PowerPlantIn ventory_20		Ptn_Jul PowerPlantInventory_2(Ptn_Aug F PowerPlantInventory_2(F
Field: Table: Sort: Show: Oriteria: or:		Ptn_Aus PowerPlantInventory_20	Ptn_Sep PowerPlantInventory_20 	Ptn_Oct PowerPlantInventory_20	Ptn Nov PowerPlantInventory_20	Ptn_Dec PowerPlantInventory_20	S02_TPY; S02_TPY PowerPlantInventory_2t	NO×TPY PowerPlantInventory_2(F
Field: Table: Sort: Show: Oriteria: or:	Ptn_Oct PowerPlantInventory_2(Ptn_Nov PowerPlantInventory_20	Ptn_Dec PowerPlantInventory_2(NO×TPY PowerPlantInventory_2(U	TSP_TPY PowerPlantInventory_2(CO_TPY PowerPlantInventory_2(

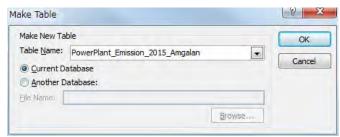
古いテーブルを削除するため、テーブル上で右クリックし、[Remove Table]を選択する。



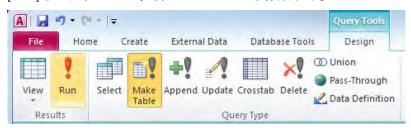
[Design]タブの[Make Table]を選択する。



新規で作成するテーブル名を入力する (ここでは、PowerPlant_Emission_2015_Amgalan)。



[Run]をクリックして、新しいテーブルを作成する。



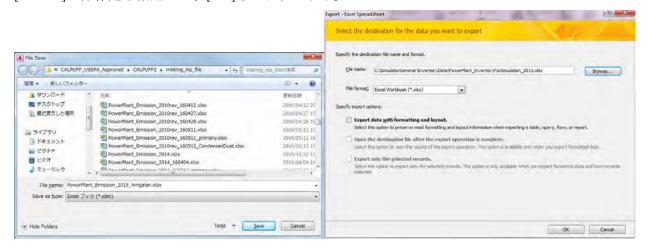
[Yes]をクリックする。



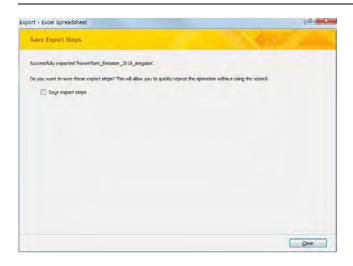
作成されたテーブルを選択し、[Design]タブの[Export]-[Excel]をクリックする。



[Browse]で保存先を指定して、[OK]をクリックする。

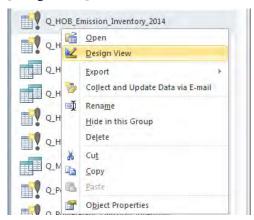


[Close]をクリックする。

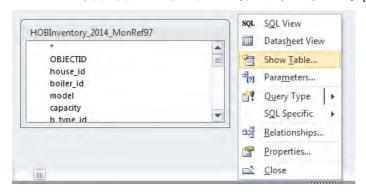


4.2 HOB

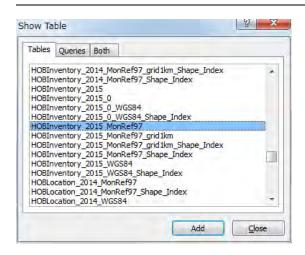
StationarySources.mdb を開き、[Q_HOB_Emission_Inventory_2014] クエリで右クリックをして、[Design View]をクリックする。



テーブルが表示されているエリアで右クリックをして、[Show Table]をクリックする。



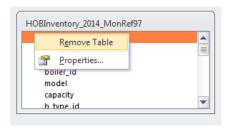
[Tables]タブの[HOBInventory_2015_MonRef97]テーブルを選択して、[Add]をクリックする。



各 Field の設定は、[HOBInventory_2015_MonRef97]テーブルの項目を適用する。



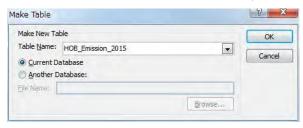
古いテーブルを削除するため、テーブル上で右クリックし、[Remove Table]を選択する。



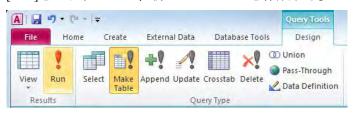
[Design]タブの[Make Table]を選択する。



新規で作成するテーブル名を入力する (ここでは、HOB_Emission_2015)。



[Run]をクリックして、新しいテーブルを作成する。

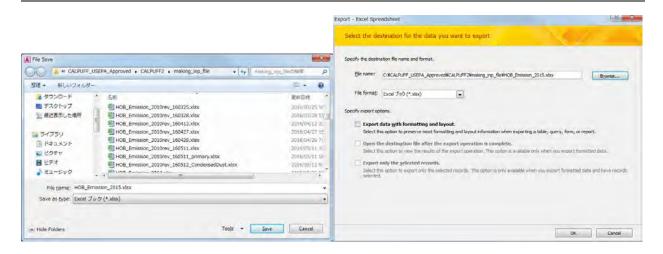


[Yes]をクリックする。

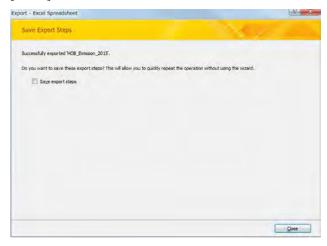


作成されたテーブルを選択し、[Design]タブの[Export]-[Excel]をクリックする。





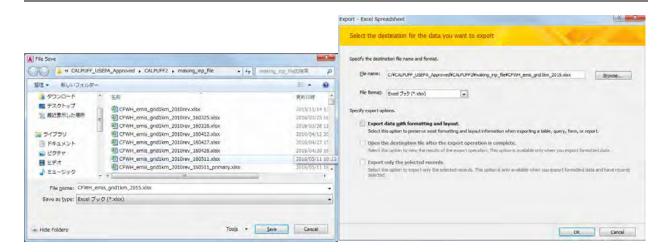
[Close]をクリックする。



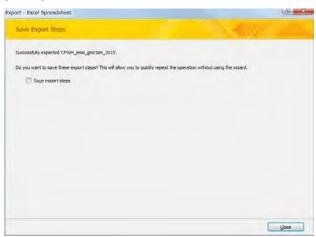
4.3 CFWH

グリッド別に集計されたテーブル (ここでは CFWH_emis_grid1km_2015 テーブル)を選択し、[Design] タブの[Export]-[Excel]をクリックする。





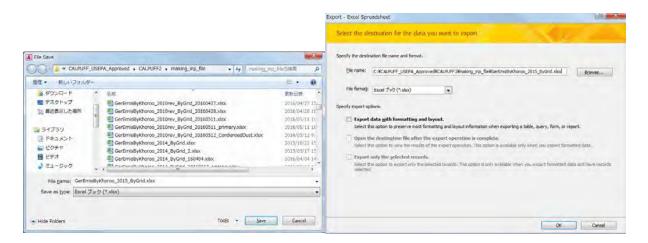
[Close]をクリックする。



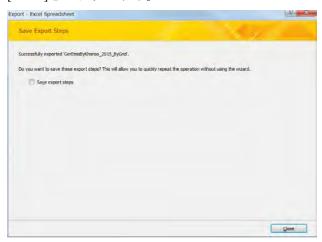
4.4 ゲルストーブ

グリッド別に集計されたテーブル (ここでは GerEmisByKhoroo_2015_ByGrid テーブル) を選択し、[Design]タブの[Export]-[Excel]をクリックする。





[Close]をクリックする。

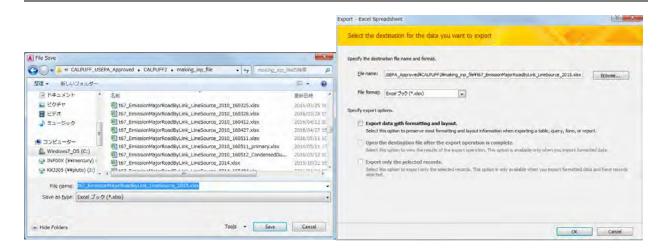


4.5 移動発生源

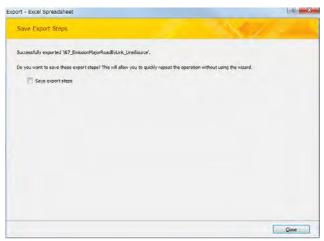
4.5.1 幹線道路

リンク別に集計されたテーブル (ここでは t67_EmissionMajorRoadByLink_LineSource テーブル) を選択し、[Design]タブの[Export]-[Excel]をクリックする。





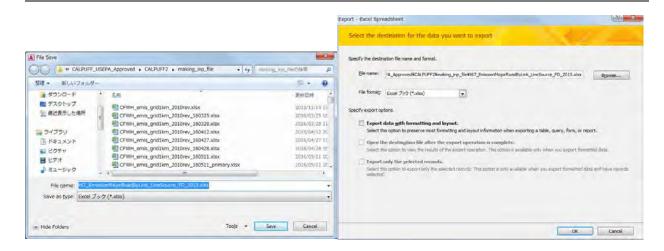
[Close]をクリックする。



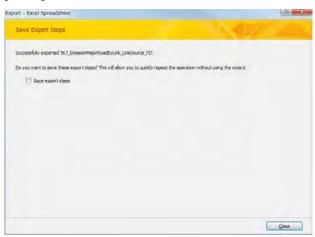
4.5.2 幹線道路からの巻き上げ粉じん

リンク別に集計されたテーブル (ここでは t67_EmissionMajorRoadByLink_LineSource_FD テーブル) を選択し、[Design]タブの[Export]-[Excel]をクリックする。





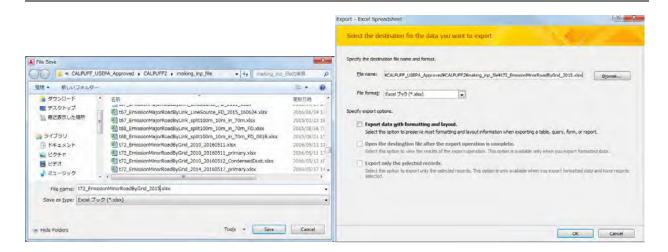
[Close]をクリックする。



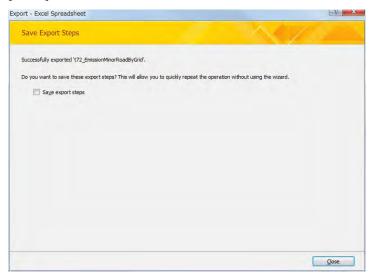
4.5.3 細街路

グリッド別に集計されたテーブル (ここでは t72_EmissionMinorRoadByGrid テーブル) を選択し、[Design]タブの[Export]-[Excel]をクリックする。



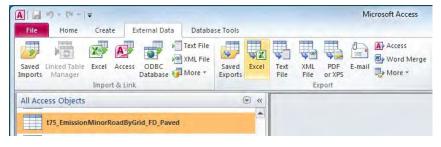


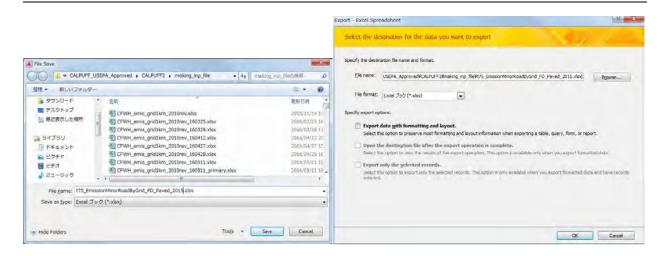
[Close]をクリックする。



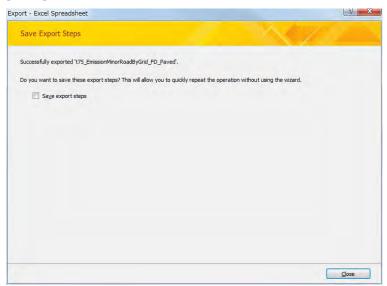
4.5.4 細街路 (舗装路) からの巻き上げ粉じん

グリッド別に集計されたテーブル (ここでは t75_EmissionMinorRoadByGrid_FD_Paved テーブル) を選択し、[Design]タブの[Export]-[Excel]をクリックする。





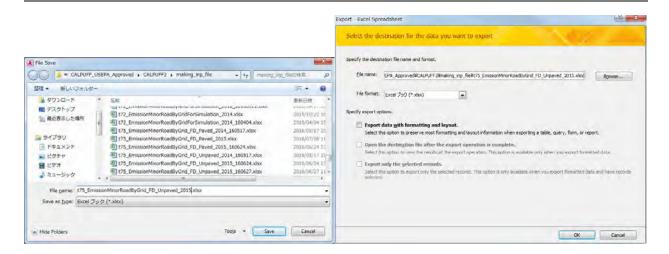
[Close]をクリックする。



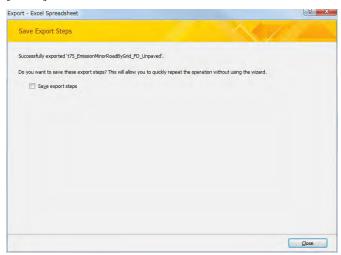
4.5.5 細街路 (非舗装路) からの巻き上げ粉じん

グリッド別に集計されたテーブル (ここでは t75_EmissionMinorRoadByGrid_FD_Unpaved テーブル) を選択し、[Design]タブの[Export]-[Excel]をクリックする。



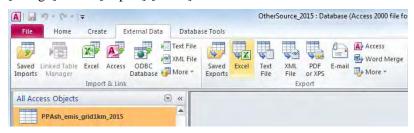


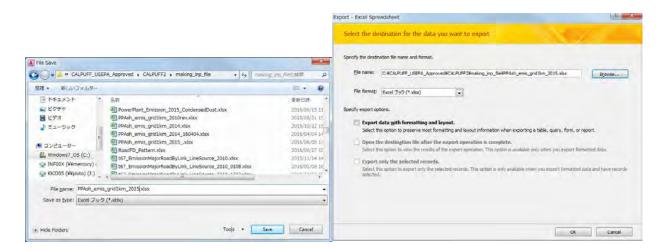
[Close]をクリックする。



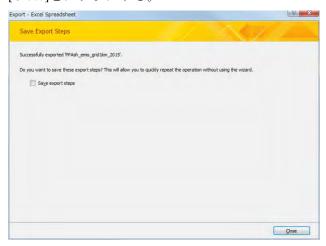
4.6 その他面的発生源

グリッド別に集計されたテーブル (ここでは PPAsh_emis_grid1km_2015 テーブル) を選択し、[Design]タブの[Export]-[Excel]をクリックする。





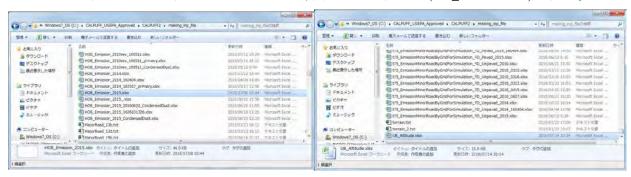
[Close]をクリックする。



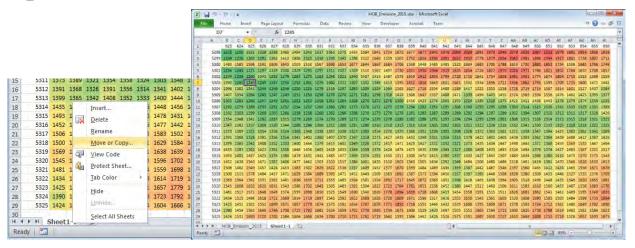
5 CALPUFF の発生源入力形式への変換

5.1 点源

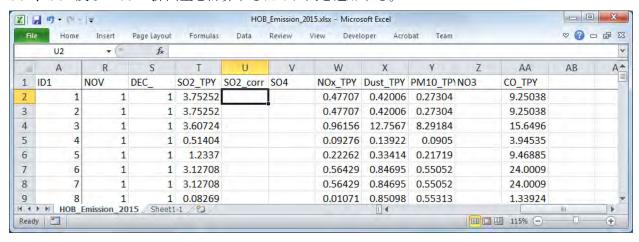
エクスポート先の Excel ファイルとグリッド別標高データファイル (UB_altitude.xlsx) を開く。



UB_altitude.xlsx の"sheet1-1"をエクスポート先の Excel ファイルにコピーする。

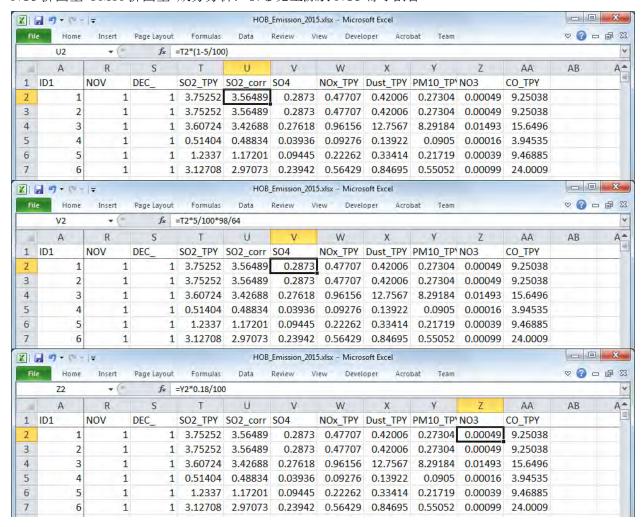


SO2、SO4及びNO3の排出量を計算するために列を追加する。



SO4 及び NO3 排出量を計算する数式を入力する SO4 排出量=SO2 排出量*SO2 から SO4 への変換率*96/64 SO2 排出量=SO2 排出量*(1-SO2 から SO4 への変換率)

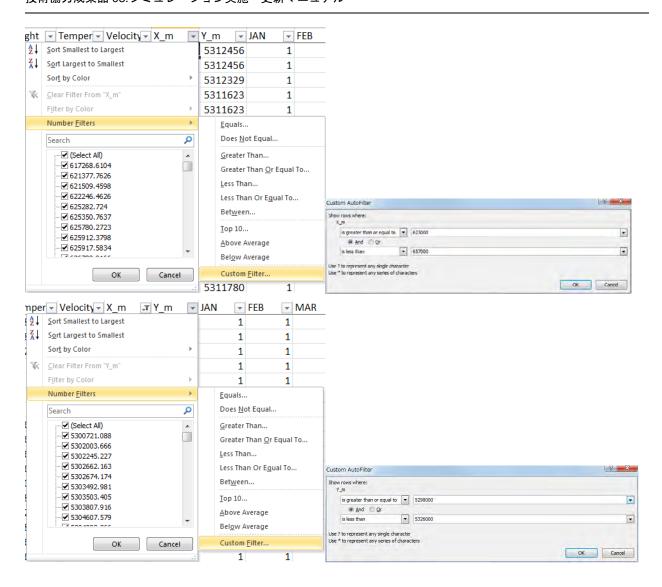
NO3 排出量=PM10 排出量*成分分析による発生源別 NO3 寄与割合



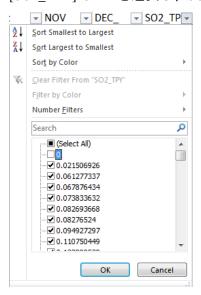
[Data]-[Filter]で1行目にフィルター機能を付ける。



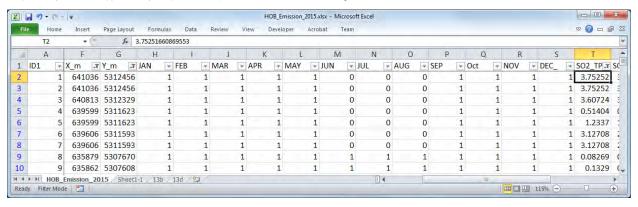
[X m]及び[Y m]で"▼"を選択し、東西及び南北方向の計算対象範囲でフィルタリングする。



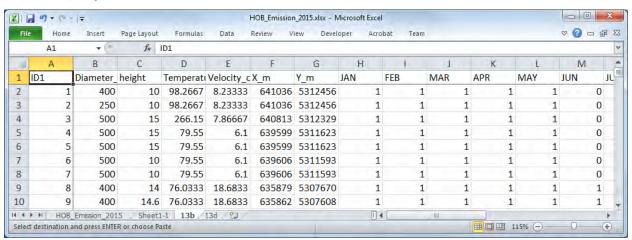
[SO2_TPY]で"▼"を選択し、SO2排出量が0でない発生源にフィルタリングする。



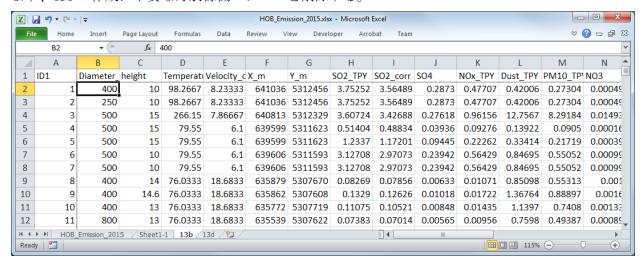
上記フィルター機能で抽出された行のみが表示される。



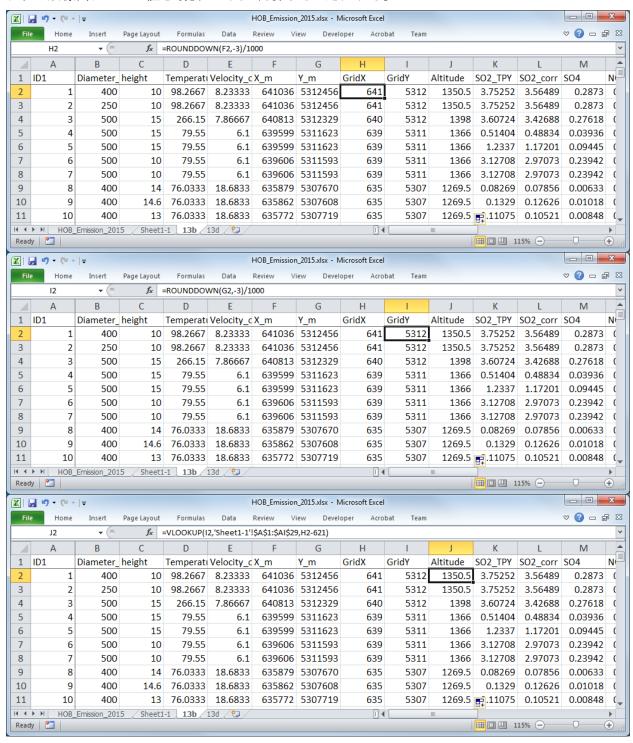
フィルター機能で絞った発生源をコピーして別のシートに貼り付け、それぞれのシート名を"13b"及び"13d"とする。



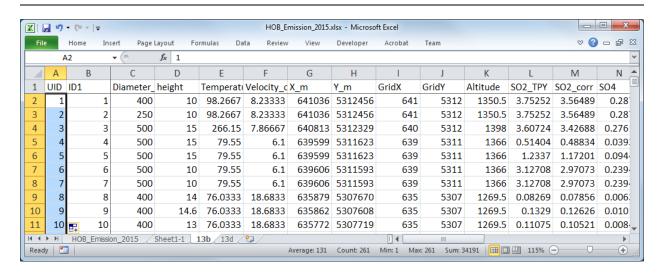
"13b"シートを使って CALPUFF 入力データの内、発生源情報に関する文字列情報 (13b) を作成する。 まず、13bの作成に不要な月別稼働パターンを削除する。



データをコピーしたシートで 3 列追加し、座標に基づいたグリッド別標高データの値を抽出する。 座標に基づいたグリッド位置を最初の 2 列に計算し、これらの値に応じて"sheet1-1"から参照したグリッド別標高データの値を最後の1列に計算する式を入れる。



ID列の前に列を挿入し、通し番号を付ける。



CALPUFF の入力ファイルに挿入する発生源情報の文字列を作成する。各列の数式の入力は以下の通りである。<>内は列タイトル名であり、式の入力の際には該当するセルを指定する。

=CONCATENATE(<UID>,"! SRCNAM = stac",TEXT(<ID1>,"0000"),"!")

=CONCATENATE(<UID>,"! X = ",<X_m>/1000,",",<Y_m>/1000,",",< height>,",",<Altitude>,",", TEXT(<Diameter_mm>/1000,"0.###"),",",TEXT(<Velocity_of_flue_gas>,"0.###"),",",TEXT(<Temperature_of_flue_gas>+273.15,"0.###"),",0,",TEXT(<SO2_corr>/(365*24*3600)*10^6,"0.00000E+00"),",",TEXT(<SO4>/(365*24*3600)*10^6,"0.00000E+00"),",",TEXT(<NOx_TPY>/(365*24*3600)*10^6,"0.00000E+00"),",",TEXT(<Dust_TPY>/(365*24*3600)*10^6,"0.00000E+00"),",0,",TEXT(<PM10_TPY>/(365*24*3600)*10^6,"0.00000E+00"),",",TEXT(<CO_TPY>/(365*24*3600)*10^6,"0.00000E+00"),",",TEXT(<CO_TPY>/(365*24*3600)*10^6,"0.00000E+00"),",",TEXT(<CO_TPY>/(365*24*3600)*10^6,"0.00000E+00"),",",TEXT(<CO_TPY>/(365*24*3600)*10^6,"0.00000E+00"),",",TEXT(<CO_TPY>/(365*24*3600)*10^6,"0.00000E+00"),",",TEXT(<CO_TPY>/(365*24*3600)*10^6,"0.00000E+00"),",",TEXT(<CO_TPY>/(365*24*3600)*10^6,"0.00000E+00"),",",TEXT(<CO_TPY>/(365*24*3600)*10^6,"0.00000E+00"),",",TEXT(<CO_TPY>/(365*24*3600)*10^6,"0.00000E+00"),",",TEXT(<CO_TPY>/(365*24*3600)*10^6,"0.00000E+00"),",",TEXT(<CO_TPY>/(365*24*3600)*10^6,"0.00000E+00"),",",TEXT(<CO_TPY>/(365*24*3600)*10^6,"0.00000E+00"),",",TEXT(<CO_TPY>/(365*24*3600)*10^6,"0.00000E+00"),",",TEXT(<CO_TPY>/(365*24*3600)*10^6,"0.00000E+00"),",",TEXT(<CO_TPY>/(365*24*3600)*10^6,"0.00000E+00"),",",TEXT(<CO_TPY>/(365*24*3600)*10^6,"0.00000E+00"),",",TEXT(<CO_TPY>/(365*24*3600)*10^6,"0.00000E+00"),",",TEXT(<CO_TPY>/(365*24*3600)*10^6,"0.00000E+00"),",",TEXT(<CO_TPY>/(365*24*3600)*10^6,"0.00000E+00"),",",TEXT(<CO_TPY>/(365*24*3600)*10^6,"0.00000E+00"),",TEXT(<CO_TPY>/(365*24*3600)*10^6,"0.00000E+00"),",TEXT(<CO_TPY>/(365*24*3600)*10^6,"0.00000E+00"),",TEXT(<CO_TPY>/(365*24*3600)*10^6,"0.00000E+00"),",TEXT(<CO_TPY>/(365*24*3600)*10^6,"0.0000E+00"),",TEXT(<CO_TPY>/(365*24*3600)*10^6,"0.0000E+00"),",TEXT(<CO_TPY>/(365*24*3600)*10^6,"0.0000E+00"),",TEXT(<CO_TPY>/(365*24*3600)*10^6,"0.0000E+00"),",TEXT(<CO_TPY>/(365*24*3600)*10^6,"0.0000E+00"),",TEXT(<CO_TPY>/(365*24*3600)*10^6,"0.0000E+00"),",TEXT(<CO_TPY>/(365*24*3600)*10^6,"0.0000E+00"),",TEXT(<CO_TPY>/(365*24*3600)*10

=CONCATENATE(<UID>,"! SIGYZI = 1000⁷,20⁸!")

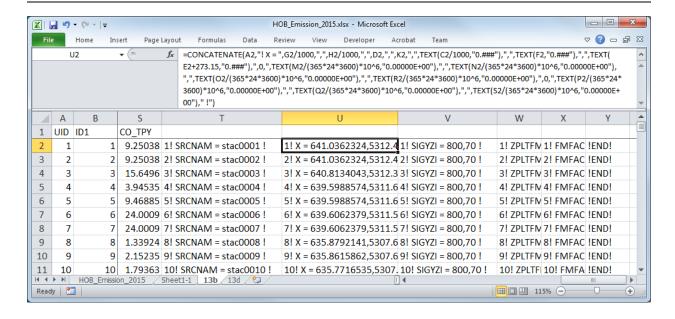
=CONCATENATE(<UID>,"! ZPLTFM = 0 !")

=CONCATENATE(<UID>,"! FMFAC = 1.0!")

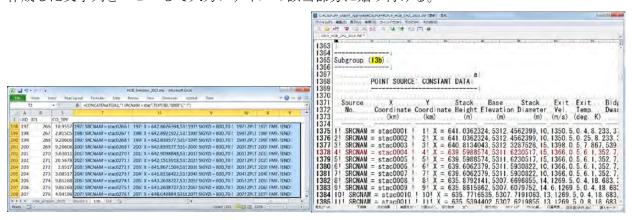
!END!

⁷火力発電所は1000、HOBは800に指定する。

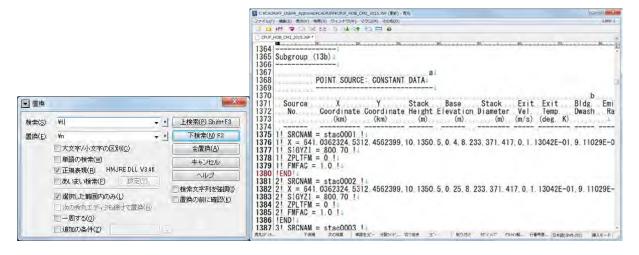
 $^{^8}$ 第 2 火力及び第 3 火力 (75t/h 系統) は 20、第 3 火力 (220t/h) は 30、第 4 火力及び Amgalan は 100、HOB は 70 に指定する。



作成した文字列をコピーして入力ファイルの該当部分に貼り付ける。

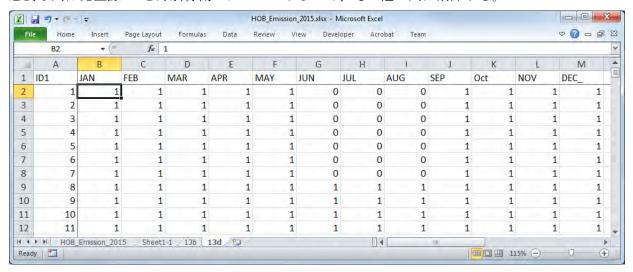


セルとセルの間はタブとして貼り付けられるため、タブを改行に置換する。

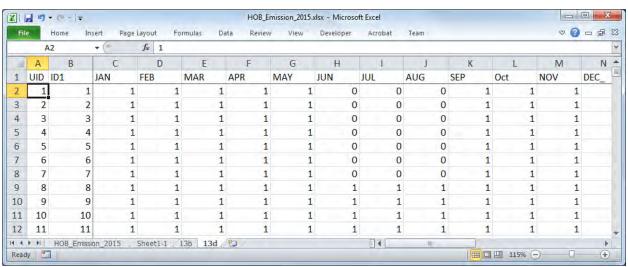


13d の作成

必要な列は発生源 ID と月別稼働パターンのみなので、その他の列は削除する。



ID列の前に列を挿入し、通し番号を付ける。



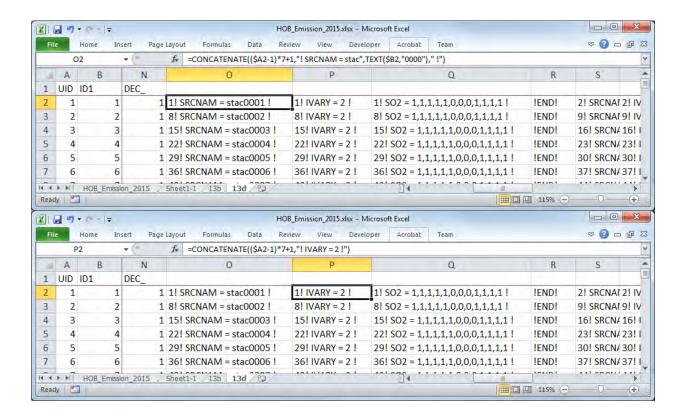
稼働パターンを指定する文字列を物質毎に作成する。

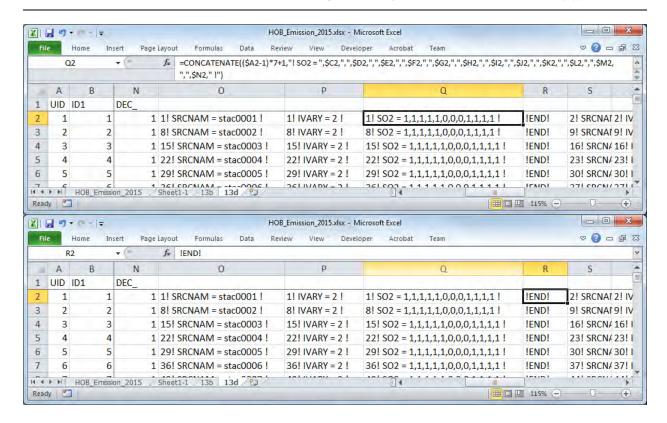
- =CONCATENATE(<UID>,"! SRCNAM = stac",TEXT(<ID1>,"0000"),"!")
- =CONCATENATE(<UID>,"! IVARY = 2!")
- = CONCATENATE(<UID>,"! < Pollutant> = ",TEXT(<JAN>,"0.0000"),", ",TEXT(<FEB>,"0.0000"),",",TEXT(<MAR>,"0.0000"),",",TEXT(<APR>,"0.0000"),",",TEXT(<MAY>,"0.0000"),",",TEXT(<JUN>,"0.0000"),",",TEXT(<JUN>,"0.0000"),",",TEXT(<AUG>,"0.0000"),",",TEXT(<SEP>,"0.0000"),",",TEXT(<OCT>,"0.0000"),",",TEXT(<NOV>,"0.0000"),",",TEXT(<DEC>,"0.0000"),"!")

!END!

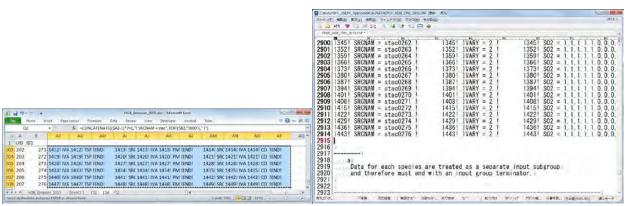
稼働パターンは物質別に作成する必要があるので、排出物質数に応じて Unique ID の付け方が異なる。

Pollutant	Unique ID			
SO2	(<uid>-1)*7+1</uid>			
SO4	(<uid>-1)*7+2</uid>			
NOX	(<uid>-1)*7+3</uid>			
NO3	(<uid>-1)*7+4</uid>			
TSP	(<uid>-1)*7+5</uid>			
PM10	(<uid>-1)*7+6</uid>			
CO	(<uid>-1)*7+7</uid>			

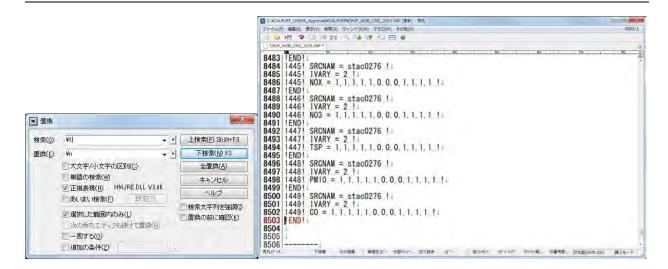




作成した文字列をコピーして入力ファイルの該当部分に貼り付ける。

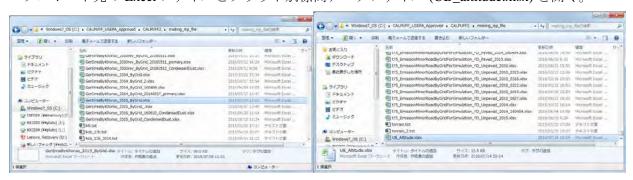


セルとセルの間はタブとして貼り付けられるため、タブを改行に置換する。

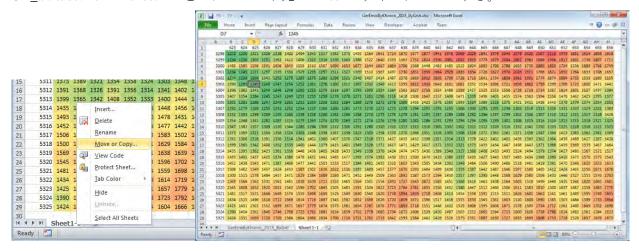


5.2 面源

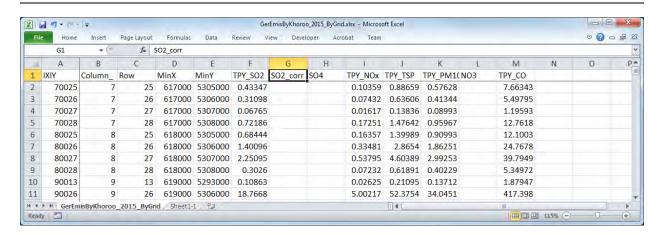
エクスポート先の Excel ファイルとグリッド別標高データファイル (UB_altitude.xlsx) を開く。



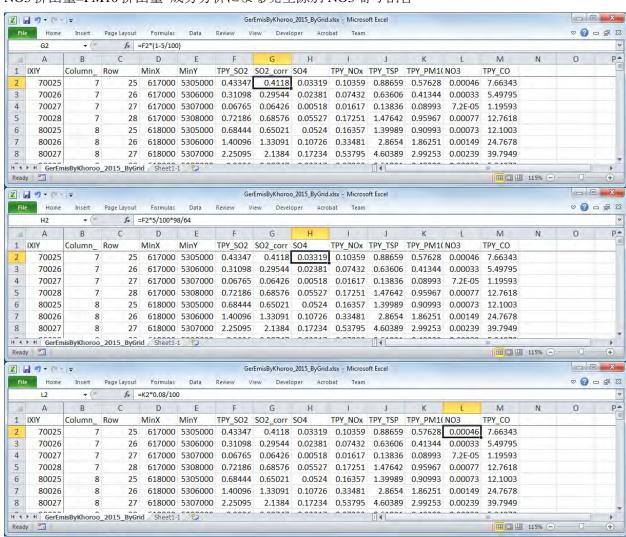
UB_altitude.xlsx の"sheet1-1"をエクスポート先の Excel ファイルにコピーする。



SO2、SO4及びNO3の排出量を計算するために列を追加する。



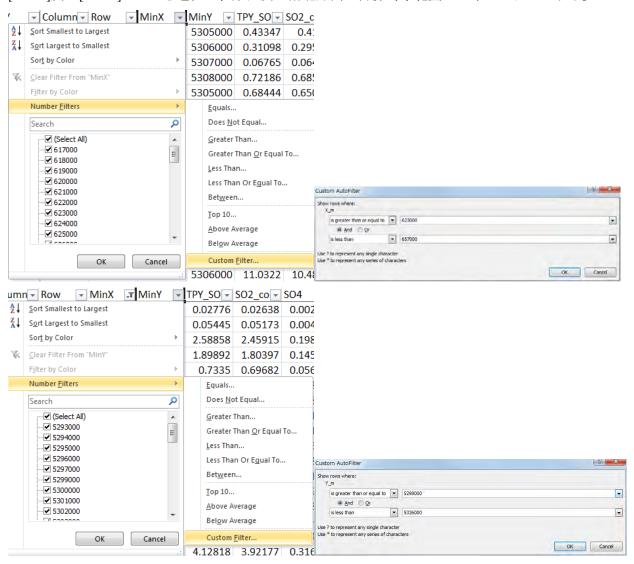
- SO4 及び NO3 排出量を計算する数式を入力する
- SO4 排出量=SO2 排出量*SO2 から SO4 への変換率*96/64
- SO2 排出量=SO2 排出量*(1-SO2 から SO4 への変換率)
- NO3 排出量=PM10 排出量*成分分析による発生源別 NO3 寄与割合



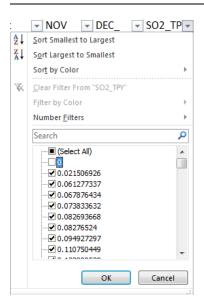
[Data]-[Filter]で1行目にフィルター機能を付ける。



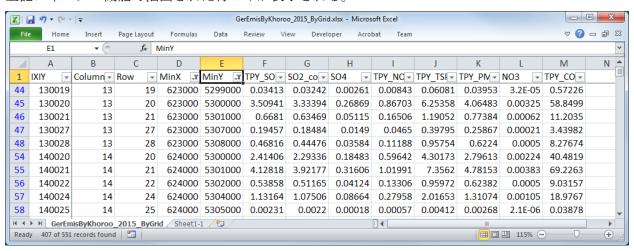
[MinX]及び[MinY]で"▼"を選択し、東西及び南北方向の計算対象範囲でフィルタリングする。



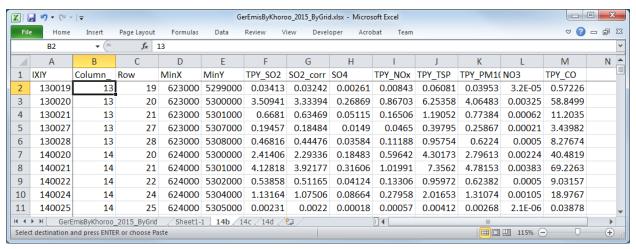
[SO2_TPY]で"▼"を選択し、SO2排出量が0でない発生源にフィルタリングする。



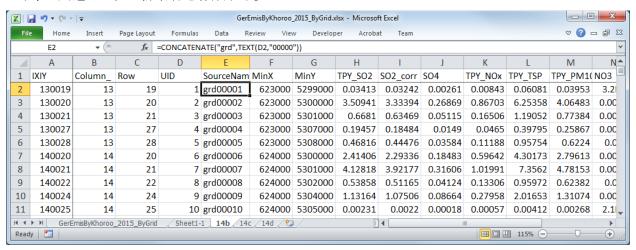
上記フィルター機能で抽出された行のみが表示される。



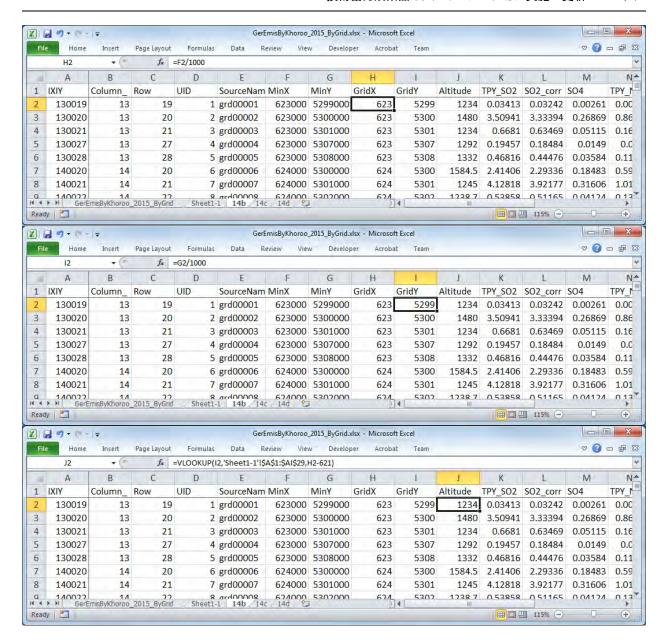
フィルター機能で絞った発生源をコピーして別のシートに貼り付け、それぞれのシート名を"14b"、"14c"及び"14d"とする。



"14b"シートを使って CALPUFF 入力データの内、発生源情報に関する文字列情報 (13b) を作成する。 まず、2 列追加し発生源名称を作成する。



データをコピーしたシートで 3 列追加し、座標に基づいたグリッド別標高データの値を抽出する。 座標に基づいたグリッド位置を最初の 2 列に計算し、これらの値に応じて"sheet1-1"から参照したグ リッド別標高データの値を最後の1列に計算する式を入れる。



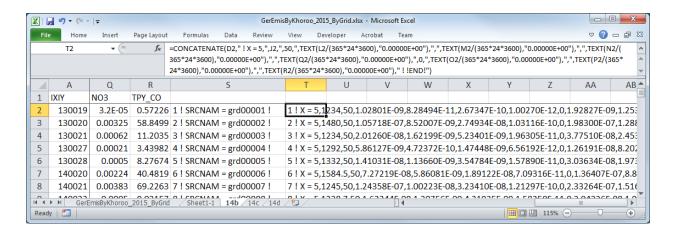
CALPUFF の入力ファイルに挿入する発生源情報の文字列を作成する。各列の数式の入力は以下の通りである。◇内は列タイトル名であり、式の入力の際には該当するセルを指定する。

=CONCATENATE(D2," ! SRCNAM = ",E2," !")

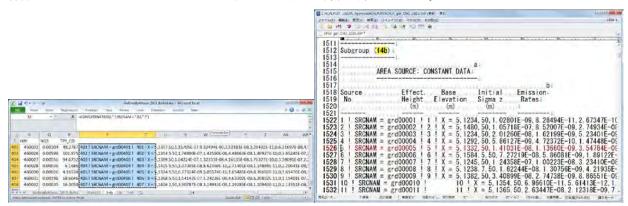
=CONCATENATE(D2," !

5,",J2,",50,",TEXT(L2/(365*24*3600),"0.00000E+00"),",",TEXT(M2/(365*24*3600),"0.00000E+00"),",TEXT(M2/(365*24*3600),"0.00000E+00"),",TEXT(M2/(365*24*3600),"0.00000E+00"),",TEXT(M2/(365*24*3600),"0.00000E+00"),",TEXT(M2/(365*24*3600),"0.00000E+00"),",TEXT(M2/(365*24*3600),"0.00000E+00"),",TEXT(M2/(365*24*3600),"0.00000E+00"),",TEXT(M2/(365*24*3600),"0.00000E+00"),",TEXT(M2/(365*24*3600),"0.0000E+00"),",TEXT(M2/(365*24*3600),"0.0000E+00"),",TEXT(M2/(365*24*3600),"0.0000E+00"),",TEXT(M2/(365*24*3600),"0.0000E+00"),",TEXT(M2/(365*24*3600),",TEXT(M2/(365*24*3600),",TEXT(M2/(365*24*3600),",TEXT(M2/(365*24*3600),",TEXT(M2/(365*24*3600),",TEXT(M2/(365*24*3600),",TEXT(M2/(365*24*3600),",TEXT

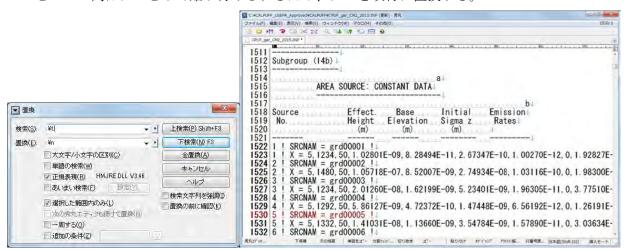
X



作成した文字列をコピーして入力ファイルの該当部分に貼り付ける。

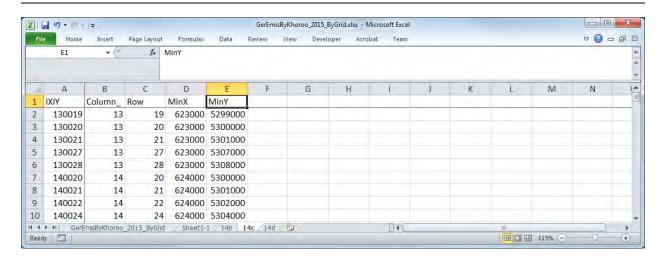


セルとセルの間はタブとして貼り付けられるため、タブを改行に置換する。

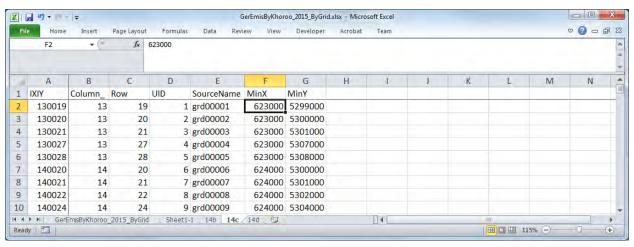


14c の作成

グリッドに関する情報以外の列を削除する。

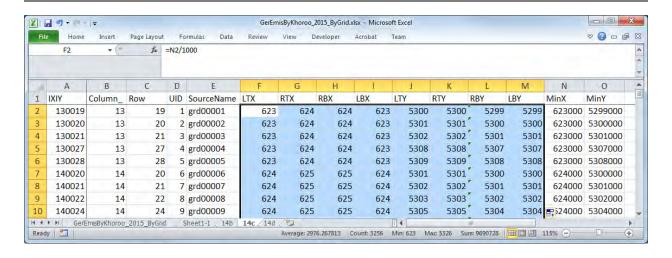


2列追加し発生源名称を作成する。



MinXの前に8列挿入し、それぞれ列名を付け、計算式を入力する。列名及び計算式は以下の通り。

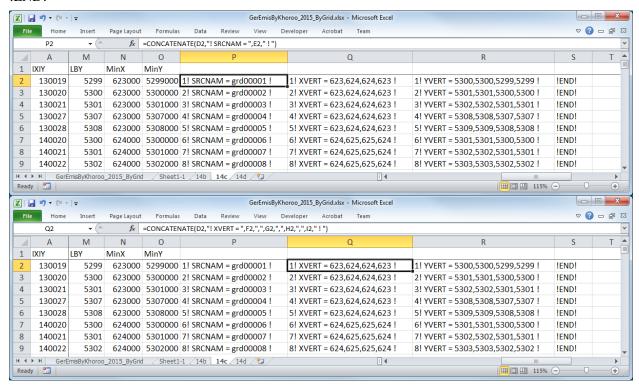
列名	LTX	RTX	RBX	LBX	LTY	RTY	RBY	LBY
内容	左上 X	右上X	右下 X	左下 X	左上 Y	右上Y	右下 Y	左下 Y
数式	MinX/1000	LTX+1	RTX	LTX	MinY/1000+1	LTY	MinX/1000	RBY

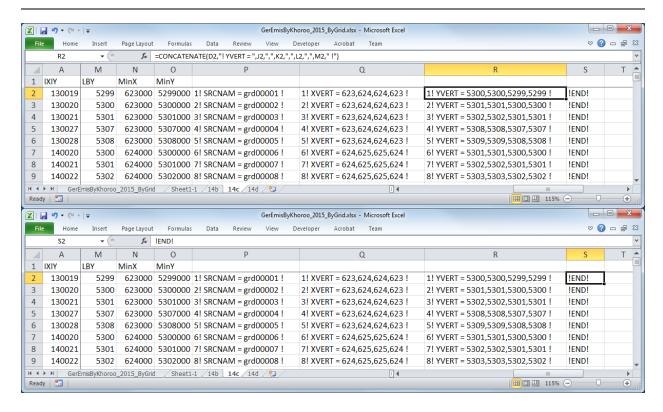


CALPUFF の入力ファイルに挿入する発生源情報の文字列を作成する。各列の数式の入力は以下の通りである。◇内は列タイトル名であり、式の入力の際には該当するセルを指定する。

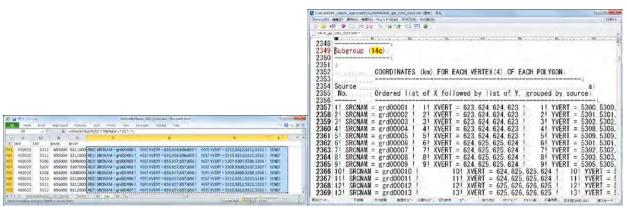
- =CONCATENATE(<UID>,"! SRCNAM = ",<SourceName>,"!")
- =CONCATENATE(<UID>,"! XVERT = ",<LTX>,",",<RTX>,",",<RBX>,",",<LBX>,"!")
- =CONCATENATE(<UID>,"! YVERT = ",<LTY>,",",<RTY>,",",<RBY>,",",<LBY>,"!")

!END!

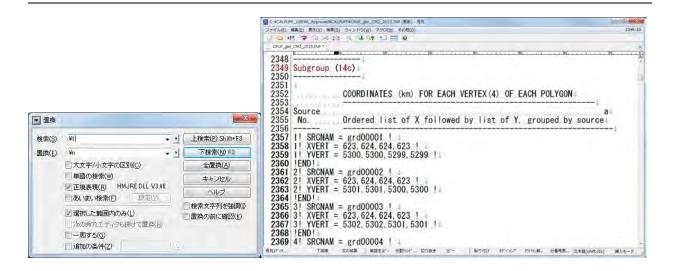




作成した文字列をコピーして入力ファイルの該当部分に貼り付ける。

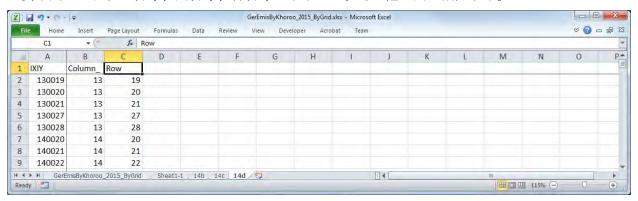


セルとセルの間はタブとして貼り付けられるため、タブを改行に置換する。

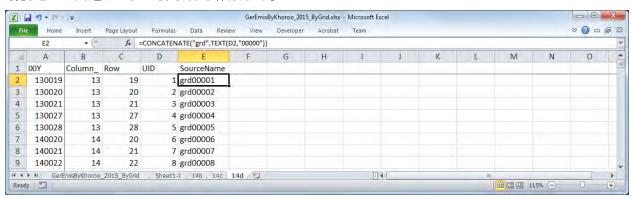


14d の作成

必要な列はグリッド番号、列番号、行番号のみなので、その他の列は削除する。



最後尾に2列追加し発生源名称を作成する。



稼働パターンを指定する文字列を物質毎に作成する。

- =CONCATENATE(<Unique ID>," ! SRCNAM = ",<SourceName>," !")
- =CONCATENATE(<Unique ID>,"! IVARY = 3!")
- =CONCATENATE(<Unique ID>," ! <Pollutant> = <Winter1>, <Winter2>, <Winter3>, <Winter4>, <Winter5>, <Winter6>, <Winter7>, <Winter8>, <Winter9>, <Winter10>, <Winter11>, <Winter12>,")

<Winter13>, <Winter14>, <Winter15>, <Winter16>, <Winter17>, <Winter18>, <Winter19>,
<Winter20>, <Winter21>, <Winter22>, <Winter23>, <Winter24>,

<Spring1>, <Spring2>, <Spring3>, <Spring4>, <Spring5>, <Spring6>, <Spring7>, <Spring8>,
<Spring9>, <Spring10>, <Spring11>, <Spring12>,

<Spring13>, <Spring14>, <Spring15>, <Spring16>, <Spring17>, <Spring18>, <Spring19>, <Spring20>,
<Spring21>, <Spring22>, <Spring23>, <Spring24>,

<Summer1>, <Summer2>, <Summer3>, <Summer4>, <Summer5>, <Summer6>, <Summer7>, <Summer8>, <Summer10>, <Summer11>, <Summer12>,

<Summer13>, <Summer14>, <Summer15>, <Summer16>, <Summer17>, <Summer18>, <Summer19>,
<Summer20>, <Summer21>, <Summer22>, <Summer24>,

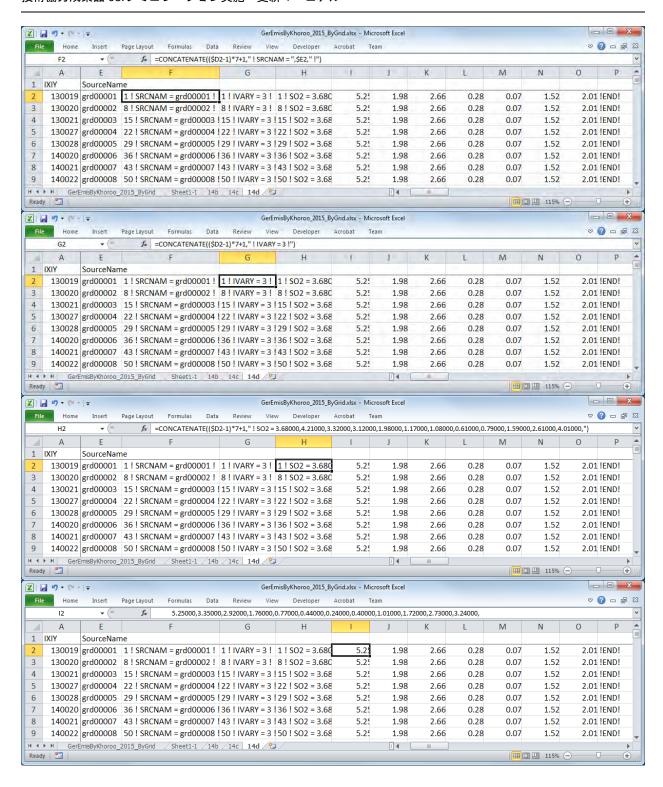
<Autumn1>, <Autumn2>, <Autumn3>, <Autumn4>, <Autumn5>, <Autumn6>, <Autumn7>, <Autumn8>, <Autumn9>, <Autumn10>, <Autumn11>, <Autumn12>,

<Autumn13>, <Autumn14>, <Autumn15>, <Autumn16>, <Autumn17>, <Autumn18>, <Autumn19>,
<Autumn20>, <Autumn21>, <Autumn22>, <Autumn23>, <Autumn24>!

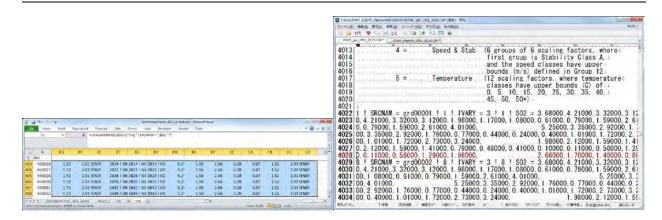
!END!

稼働パターンは物質別に作成する必要があるので、排出物質数に応じて Unique ID の付け方が異なる。

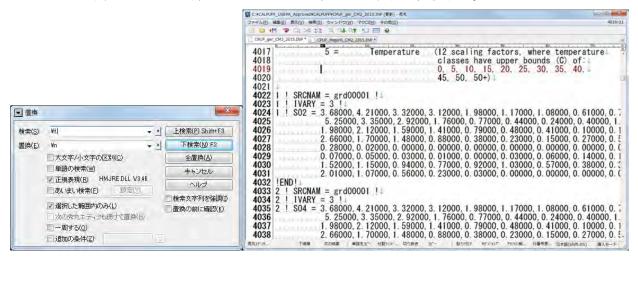
Pollutant	Unique ID
SO2	(<uid>-1)*7+1</uid>
SO4	(<uid>-1)*7+2</uid>
NOX	(<uid>-1)*7+3</uid>
NO3	(<uid>-1)*7+4</uid>
TSP	(<uid>-1)*7+5</uid>
PM10	(<uid>-1)*7+6</uid>
СО	(<uid>-1)*7+7</uid>



作成した文字列をコピーして入力ファイルの該当部分に貼り付ける。

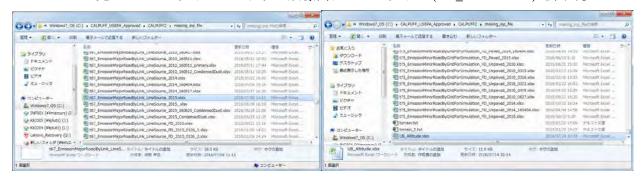


セルとセルの間はタブとして貼り付けられるため、タブを改行に置換する。

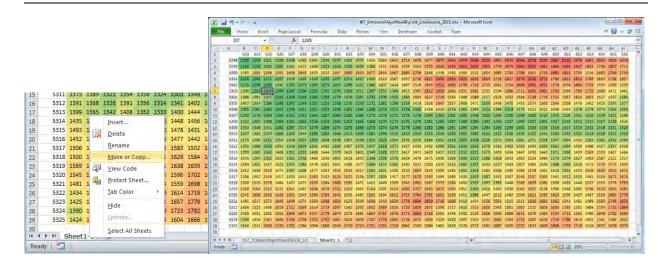


5.3 線源

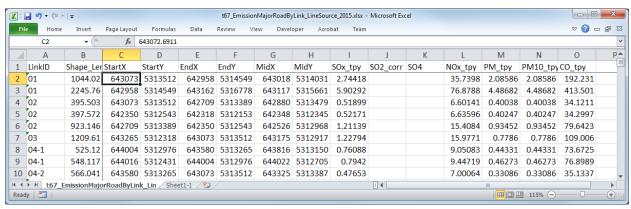
エクスポート先の Excel ファイルとグリッド別標高データファイル (UB_altitude.xlsx) を開く。



UB_altitude.xlsx の"sheet1-1"をエクスポート先の Excel ファイルにコピーする。



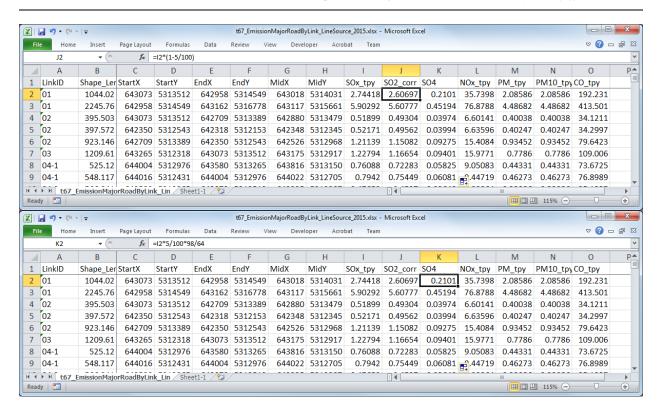
SO2、SO4及びNO3の排出量を計算するために列を追加する。



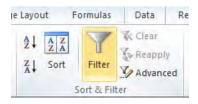
SO4 及び NO3 排出量を計算する数式を入力する

SO4 排出量=SO2 排出量*SO2 から SO4 への変換率*96/64

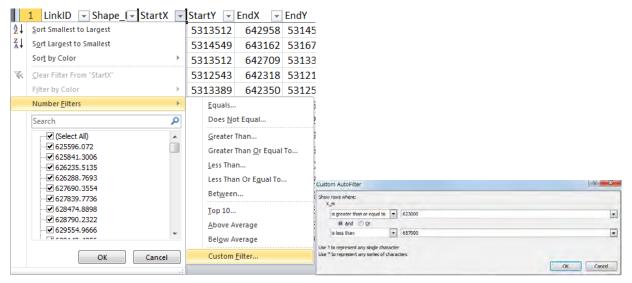
SO2 排出量=SO2 排出量*(1-SO2 から SO4 への変換率)

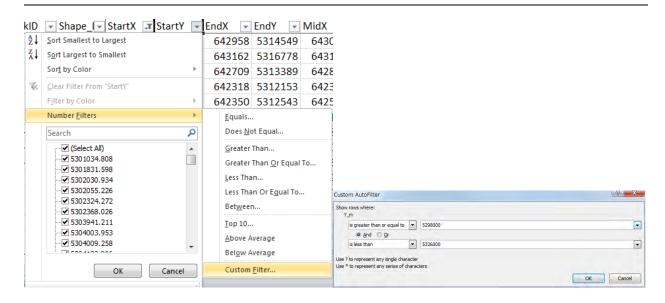


[Data]-[Filter]で1行目にフィルター機能を付ける。

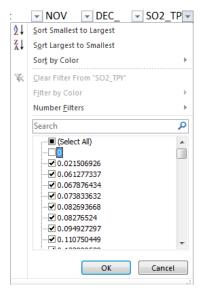


[StartX]及び[StartY]、[EndX]及び[EndY]、[MidX]及び[MidY]で"▼"を選択し、東西及び南北方向の計算対象範囲でフィルタリングする。

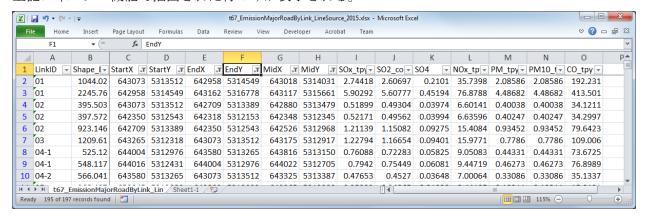




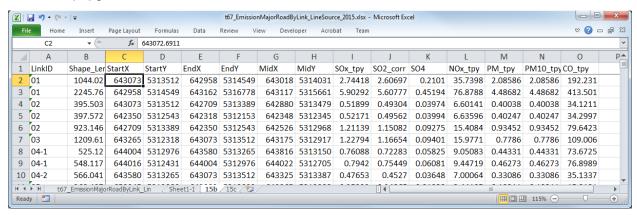
0 の排出量がある場合、[SOx_tpy]で"▼"を選択し、SO2 排出量が 0 でない発生源にフィルタリング する。



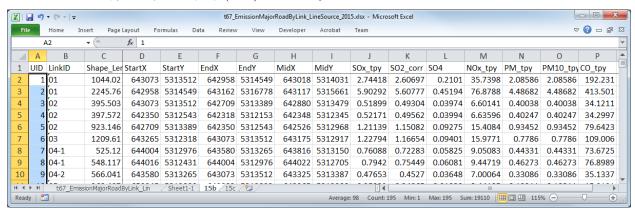
上記フィルター機能で抽出された行のみが表示される。



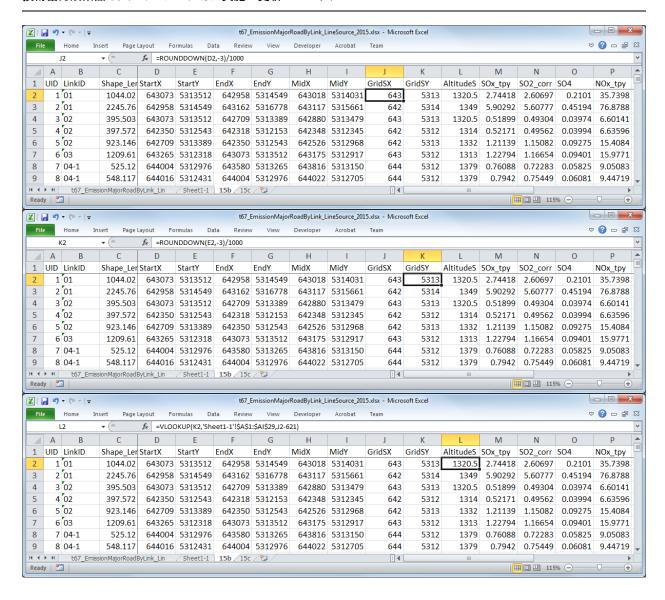
フィルター機能で絞った発生源をコピーして別のシートに貼り付け、それぞれのシート名を"15b"及び"15c"とする。



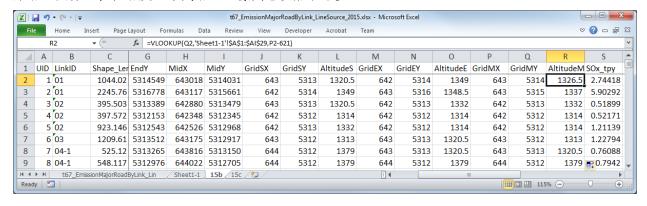
"15b"シートを使って CALPUFF 入力データの内、発生源情報に関する文字列情報 (15b) を作成する。 ID 列の前に列を挿入し、通し番号 (UID) を付ける。



データをコピーしたシートで 3 列追加し、始点座標に基づいたグリッド別標高データの値を抽出する。座標に基づいたグリッド位置を最初の 2 列に計算し、これらの値に応じて"sheet1-1"から参照したグリッド別標高データの値を最後の1列に計算する式を入れる。



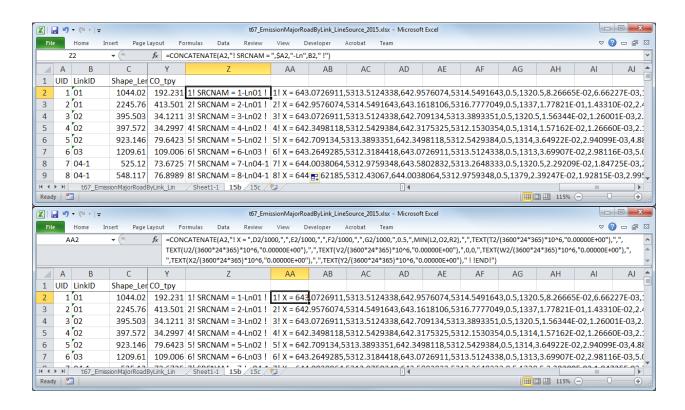
始点と同様に、終点及び中間点での標高を参照する。



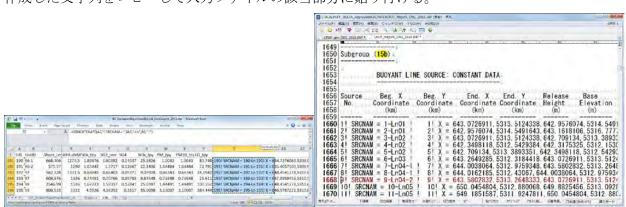
CALPUFF の入力ファイルに挿入する発生源情報の文字列を作成する。各列の数式の入力は以下の通りである。◇内は列タイトル名であり、式の入力の際には該当するセルを指定する。

=CONCATENATE(<UID>,"! SRCNAM = ",<UID>,"-Ln",<LinkID>,"!")

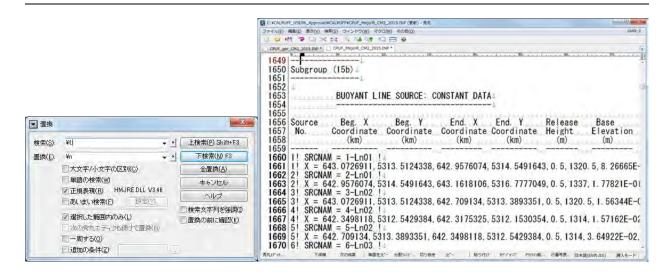
=CONCATENATE(<UID>,"! X = ",<StartX>/1000,",",<StartY>/1000,",",<EndX>/1000,",",<EndY>/1000,",
0.5,",MIN(<AltitudeS>,<AltitudeE>,<AltitudeM>),",",TEXT(<SO2_corr>/(3600*24*365)*10^6,"0.00000E+0
0"),",",TEXT(<SO4>/(3600*24*365)*10^6,"0.00000E+00"),",",TEXT(<NOx_tpy>/(3600*24*365)*10^6,"0.0
0000E+00"),",0,0,",TEXT(<PM_tpy>/(3600*24*365)*10^6,"0.00000E+00"),",",TEXT(<PM10_tpy>/(3600*24*365)*10^6,"0.00000E+00"),",",TEXT(<PM10_tpy>/(3600*24*365)*10^6,"0.00000E+00"),",",TEXT(<PM10_tpy>/(3600*24*365)*10^6,"0.00000E+00"),",",TEXT(<PM10_tpy>/(3600*24*365)*10^6,"0.00000E+00"),",",TEXT(<PM10_tpy>/(3600*24*365)*10^6,"0.00000E+00"),",",TEXT(<PM10_tpy>/(3600*24*365)*10^6,"0.00000E+00"),",",TEXT(<PM10_tpy>/(3600*24*365)*10^6,"0.00000E+00"),",",TEXT(<PM10_tpy>/(3600*24*365)*10^6,"0.00000E+00"),",",TEXT(<PM10_tpy>/(3600*24*365)*10^6,"0.00000E+00"),",",TEXT(<PM10_tpy>/(3600*24*365)*10^6,"0.00000E+00"),",",TEXT(<PM10_tpy>/(3600*24*365)*10^6,"0.00000E+00"),",",TEXT(<PM10_tpy>/(3600*24*365)*10^6,"0.00000E+00"),",",TEXT(<PM10_tpy>/(3600*24*365)*10^6,"0.00000E+00"),",",TEXT(<PM10_tpy>/(3600*24*365)*10^6,"0.00000E+00"),",",TEXT(<PM10_tpy>/(3600*24*365)*10^6,"0.00000E+00"),",",TEXT(<PM10_tpy>/(3600*24*365)*10^6,"0.00000E+00"),",",TEXT(<PM10_tpy>/(3600*24*365)*10^6,"0.00000E+00"),",",TEXT(<PM10_tpy>/(3600*24*365)*10^6,"0.00000E+00"),",",TEXT(<PM10_tpy>/(3600*24*365)*10^6,"0.00000E+00"),",",TEXT(<PM10_tpy>/(3600*24*365)*10^6,"0.00000E+00"),",",TEXT(<PM10_tpy>/(3600*24*365)*10^6,"0.00000E+00"),",",TEXT(<PM10_tpy>/(3600*24*365)*10^6,"0.00000E+00"),",TEXT(<PM10_tpy>/(3600*24*365)*10^6,"0.00000E+00"),",TEXT(<PM10_tpy>/(3600*24*365)*10^6,"0.00000E+00"),",TEXT(<PM10_tpy>/(3600*24*365)*10^6,"0.00000E+00"),",TEXT(<PM10_tpy>/(3600*24*365)*10^6,"0.00000E+00"),",TEXT(<PM10_tpy>/(3600*24*365)*10^6,"0.00000E+00"),",TEXT(<PM10_tpy>/(3600*24*365)*10^6,"0.00000E+00"),",TEXT(<PM10_tpy>/(3600*24*365)*10^6,"0.0000E+00"),",TEXT(<PM10_tpy>/(3600*24*365)*10^6,"0.0000E+00"),",TEXT(<PM10_tpy>/(3600*24*365)*10^6,"0.0000E+00"),",TEXT(<PM10_tpy>/(3600*24*365)*10^6,



作成した文字列をコピーして入力ファイルの該当部分に貼り付ける。

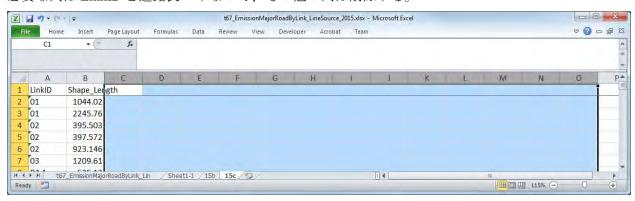


セルとセルの間はタブとして貼り付けられるため、タブを改行に置換する。

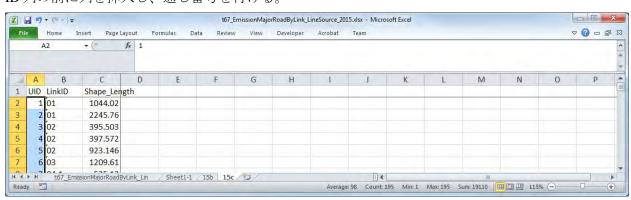


15c の作成

必要な列は LinkID と道路長のみなので、その他の列は削除する。



ID列の前に列を挿入し、通し番号を付ける。



稼働パターンを指定する文字列を物質毎に作成する。

- =CONCATENATE(<Unique ID>,"! SRCNAM = ",<UID>,"-Ln",<LinkID>,"!")
- =CONCATENATE(<Unique ID>,"! IVARY = 3!")
- =CONCATENATE(<Unique ID>," ! <Pollutant> = <Winter1>, <Winter2>, <Winter3>, <Winter4>, <Winter5>, <Winter6>, <Winter7>, <Winter8>, <Winter9>, <Winter10>, <Winter11>, <Winter12>,")

<Winter13>, <Winter14>, <Winter15>, <Winter16>, <Winter17>, <Winter18>, <Winter19>,
<Winter20>, <Winter21>, <Winter22>, <Winter23>, <Winter24>,

<Spring1>, <Spring2>, <Spring3>, <Spring4>, <Spring5>, <Spring6>, <Spring7>, <Spring8>,
<Spring9>, <Spring10>, <Spring11>, <Spring12>,

<Spring13>, <Spring14>, <Spring15>, <Spring16>, <Spring17>, <Spring18>, <Spring19>, <Spring20>,
<Spring21>, <Spring22>, <Spring23>, <Spring24>,

<Summer1>, <Summer2>, <Summer3>, <Summer4>, <Summer5>, <Summer6>, <Summer7>, <Summer8>, <Summer9>, <Summer10>, <Summer11>, <Summer12>,

<Summer13>, <Summer14>, <Summer15>, <Summer16>, <Summer17>, <Summer18>, <Summer19>,
<Summer20>, <Summer21>, <Summer22>, <Summer24>,

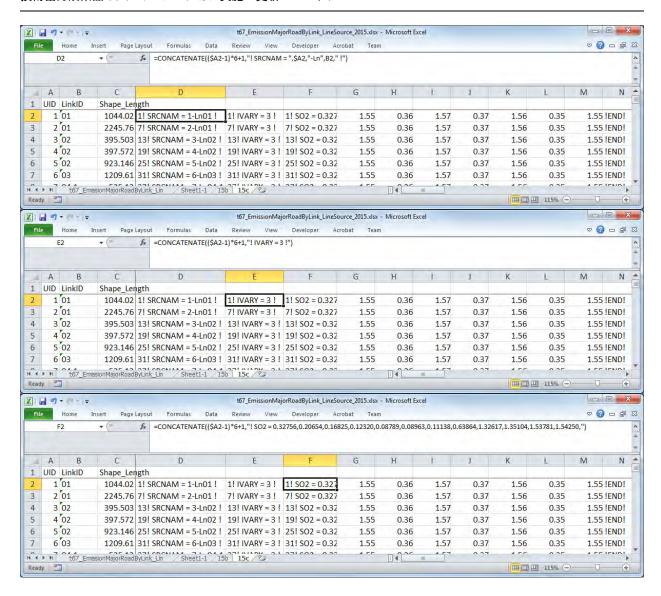
<Autumn1>, <Autumn2>, <Autumn3>, <Autumn4>, <Autumn5>, <Autumn6>, <Autumn7>, <Autumn8>, <Autumn9>, <Autumn10>, <Autumn11>, <Autumn12>,

<Autumn13>, <Autumn14>, <Autumn15>, <Autumn16>, <Autumn17>, <Autumn18>, <Autumn19>,
<Autumn20>, <Autumn21>, <Autumn22>, <Autumn23>, <Autumn24>!

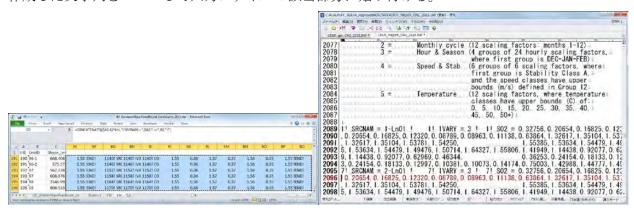
!END!

稼働パターンは物質別に作成する必要があるので、排出物質数に応じて Unique ID の付け方が異なる。

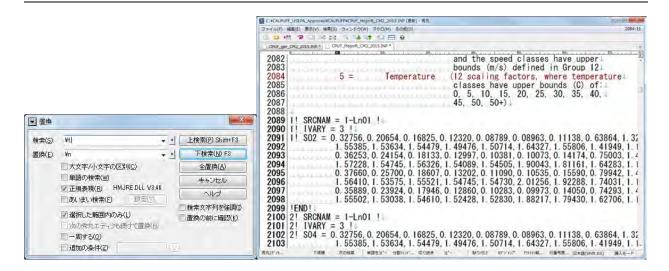
Pollutant	Unique ID
SO2	(<uid>-1)*6+1</uid>
SO4	(<uid>-1)*6+2</uid>
NOX	(<uid>-1)*6+3</uid>
TSP	(<uid>-1)*6+4</uid>
PM10	(<uid>-1)*6+5</uid>
CO	(<uid>-1)*6+6</uid>



作成した文字列をコピーして入力ファイルの該当部分に貼り付ける。



セルとセルの間はタブとして貼り付けられるため、タブを改行に置換する。



6 拡散計算の実施及び集計

6.1 拡散計算の実施

6.1.1 概要

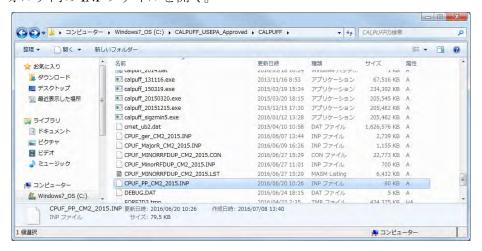
3.2 で作成した発生源データと CALMET で作成した気象モデルを使って CALPUFF の拡散計算を実施する。

CALPUFF では、入力ファイルと出力ファイル、計算期間、計算対象物質、投影法と座標系及び計算範囲と計算解像度を指定する。これらの設定は、これまでのプロセッサで指定した内容と同じでなければならない。また、本マニュアルでは化学変化過程を考慮するため、CALPUFF の INP ファイル内のパラメータで設定する。また、INP ファイルでは、計算範囲より内側の範囲で解析対象範囲を絞り込み、解析対象範囲でのグリッドを細分化することも出来る。発生源データはデータ変換されたファイルの内容を CALPUFF の INP ファイルの該当する箇所に張り付け、発生源の数などのパラメータを修正する。

拡散計算は発生源別の寄与濃度を確認するため、発生源ごとに実施する。

6.1.2 実施方法

CALPUFF フォルダ内の **INP** ファイルを開く。



気象モデルのデータ (METDAT) 及び出力ファイル名 (PUFLST、CONDAT) を指定する。

```
/edVCALPLIFFYCPLIF PP CM2 2015.INP - 長京
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 検索(S) ウィンドウ(W) マクロ(M) その伯(O)
   DOM POSE QUARTOR
      CPUF PP CM2 2015.INP
           11 INPUT GROUP: 0 -- Input and Output File Names
            14 Default Name Type File Name
                                                                                           input ! METDAT =../CALMET/cmet_ub2.dat !4
           16 CALMET. DAT
            18 ISCMET. DAT
                                                                                        input * ISCDAT = UB_MET201003_201102_2. DAT*
          19 or↓
20 PLMMET. DAT
                                                                                           input * PLMDAT =
          21 or | * PRFDAT = 22 PROFILE. DAT input * PRFDAT = 23 SURFACE. DAT input * SFCDAT = 24 RESTARTB. DAT input * RSTARTB=
         26 CALPUFF.LST output ! PUFLST = CPUF PP CM2 2015.LST ! 27 CONC. DAT output ! CONDAT = CPUF PP CM2 2015. CON ! 28 DFLX. DAT output * DFDAT = CPUF. DRY * 29 WFLX. DAT output * WFDAT = CPUF. WET * 4
         | WFDAL | SALE | SUPPLY | SALE | SALE
           35
                                                                                次の結果 単語を元"- 分割20ド... 切り抜き ユ"-
                                                       下標準
                                                                                                                                                                                                                              服り付け サゲジャンア 7015(7解... 行業号表... 日本頃(Shift-ITS)
```

計算対象期間を設定する (METRUN)。"0"を設定した場合、計算開始日時を設定しなければならない (IBYR、IBMO、IBDY、IBHR)。"1"を設定した場合、気象モデルに含まれている期間が計算対象期間となる。

```
96 INPUT GROUP: 1 -- General run control parameters
          Option to run all periods found↓
in the met. file (METRUN) Default: 0 ! METRUN = 0 !↓
 99
  101
                METRUN = 0 - Run period explicitly defined below
METRUN = 1 - Run all periods in met. file
  102
  103
  104
              Starting date: Year (IBYR) — No default (used only if Month (IBMO) — No default METRUN = 0) Day (IBDY) — No default Hour (IBHR) — No default
                                                                                            | IBYR = 2010 | | |
| IBMO = 11 | | |
| IBDY = 1 | | |
| IBHR = 1 | | |
  105
  106
  107
  109
              Note: IBHR is the time at the END of the first hour of the simulation \downarrow (IBHR=1, the first hour of a day, runs from 00:00 to 01:00) \downarrow
  110
                  下横横 次の検責 単語を文 分割のか... 切り抜き 北 - 「髪り付け がジャン わらり幅... 行番号表... 日本語(Shift-JIS)
```

また、タイムゾーン (XBTZ)、計算時間数 (IRLG)、計算対象物質数 (NSPEC) 及び発生源から排出される物質数 (NSE) を指定する。

```
C:YCALPUFF USERA Approved/CALPUFFYCPUF PP CM2 2015.INP - 57
ファイル(E) 雑葉(E) 表示(V) 検索(S) ウィンドウ(W) マクロ(M) そ
               Se 22 Q Q4 Q4 C = 0
           (IBHR=1, the first hour of a day, runs from 00:00 to 01:00)
 112
         Dase time zone (XBTZ) -- No default ! XBTZ = -8.0 !\downarrow The zone is the number of hours that must be\downarrow ADDED to the time to obtain UTC (or GMT) \downarrow Examples: PST = 8., MST = 7. \downarrow CST = 6., EST = 5. \downarrow
 115 I
 116
 117
 120
            Length of run (hours) (IRLG) -- No default ! IRLG = 2880 !
            Number of chemical species (NSPEC)
                    Default: 5 ! NSPEC = 8 !
  122
 123
124
125
            Number of chemical species
            to be emitted (NSE) Default: 3 ! NSE = 7 !
 126
            ビースペ キュ ヘキュス マリロ ヘチキュレー

下候職 次の極重 単語を元・分割らか… 切り抜き ユニー 貼り付け がりらげ 75分の概… 行番号表… 日本頃(Shift-IIS) 様人モード
```

化学変化を考慮するか否かを設定する (MCHEM)。このマニュアルでは MESOPUFF II スキームを用いた擬一次化学反応モデルを考慮するため、"1" を指定する。

汚染物質に関する情報を設定する。NSPECで設定した計算対象物質数分の物質を設定する。

```
■ C:VCALPUFF USEPA ApprovedVCALPUFFVCPUF PP CM2 2015.INP - 長丸
ファイル(E) 横葉(E) 表示(Y) 検索(S) ウィンドウ(W) マクロ(M)
 DOM POXXX QUAR DE 0
 447 TNPUT GROUP: 3a, 3b -- Species list
  449
  451 Subgroup (3a)
  452
  454
       The following species are modeled:
  455
       ! CSPEC =
  456
457
         CSPEC =
                              S04 !
                              NOX
  459
         CSPEC =
                              HN03 !
                                                IEND!
        CSPEC =
CSPEC =
  460 i
                             NO3 !
                                               IFNDI
  461
                                               !END!
         CSPEC =
        CSPEC = PM10 ! !END
CSPEC = CO ! !END!
                                                !END!
  463 !
  464

        下機構
        次の開業
        単語を支<sup>*</sup>・分割のが、、切り数き
        支<sup>*</sup>・ 協り付け
        カディップ
        力けら配。 行業特表 、日本語(Shin-JiS)
        両人モード
```

汚染物質毎に計算出力対象か否か (MODELED)、排出対象か否か (EMITTED) を設定する。

```
    C:WCALPUFF_USEPA_ApprovedWCALPUFFWCPUF_PP_CM2_2015.INP - 男見

ファイル(E) 編集(E) 表示(Y) 検集(S) ウィンドウ(W) マクロ(M) その他(Q)
                                 !END!
 462 ! CSPEC =
463 ! CSPEC =
                        PM10 ! !END
CO ! !END!
 464
465
466
467
468
                                                          SPECIES
                           MODELED
                                            EMITTED
                  (0=NO, 1=YES) (0=NO, 1=YES)
         NAME
(Limit: 12
                                                            1=COMPUTED-GAS
2=COMPUTED-PARTICLE
3=USER-SPECIFIED)
 469
470
471
472
         in length)
                                                                                  3= etc.) 1
                 S02 =
 473
474
475
476
477
478
479
                 S04 =
                                                                                  0 1
                      HNO3 =
                 N03 =
TSP =
                TSP = 1. 1.

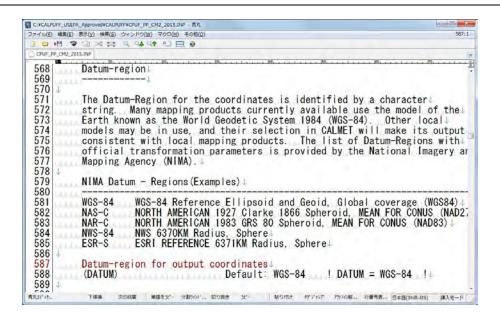
PM10 = 1. 1.

CO = 1, 1.
                                                                                   0
  480
 481
482
      !END!
              下候補 次の補理 単語を光*- 分割からが... 切り抜き 北*- 貼り付け がじゃりが わけらが... 行番号表... 日本版(Shift-IIS) 挿入モード
```

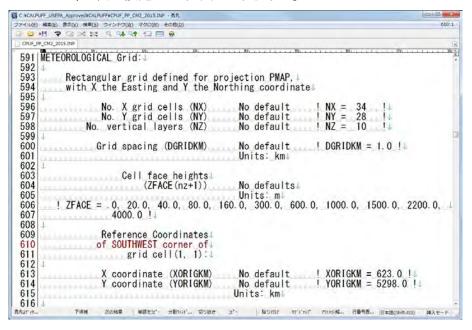
出力データの投影法を設定する (PMAP等)。CALMET等と同じ設定にしなければならない。

```
IN C:YCALPUFF_USEPA_ApprovedYCALPUFFYCPUF_PP_CM2_2015.INP - 男兄
 ファイル(E) 編集(E) 表示(X) 検索(S) ウィンドウ(W) マクロ(M) その他(O)
  PH P
                    × 12 1 14 17 10 11 2
  504 INPUT GROUP: 4 -- Map Projection and Grid control parameters
  505
  506
  507
                Projection for all (X, Y):
  508
  509
         Map projection↓ Default: UTM ! PMAP = UTM !↓
  510
511
  512
                            : Universal Transverse Mercator↓
: Tangential Transverse Mercator↓
: Lambert Conformal Conic↓
  514
515
                      ITM
                    PS : Polar Stereographic |
EM : Equatorial Mercator |
LAZA : Lambert Azimuthal Equal Area
  516
  517
  518
  519
                False Easting and Northing (km) at the projection original (Used only if PMAP= TTM, LCC, or LAZA) (FEAST) Default=0.0 ! FEAST = 0.000 ! (FNORTH) Default=0.0 ! FNORTH = 0.000 !
  521
  522
  523
  524
                UTM zone (1 to 60) ↓
(Used only if PMAP=UTM) ↓
  525
526
  527
              (IUTMZN) No Default ! IUTMZN = 48 !
  528
              Hemisphere for UTM projection?↓
(Used only if PMAP=UTM)↓
(UTMHEM) Default: N ! UTMHEM = N !↓
N : Northern hemisphere projection↓
S : Southern hemisphere projection↓
  529
530
531
  532
533
                  下條補 次の結果 単語を北"- 分割のい"... 切り抜き ユ"- | 貼り付け が"2"+27" 7州20緒... 行番号表... 日本語(Shitt-ITS) 挿入モード
```

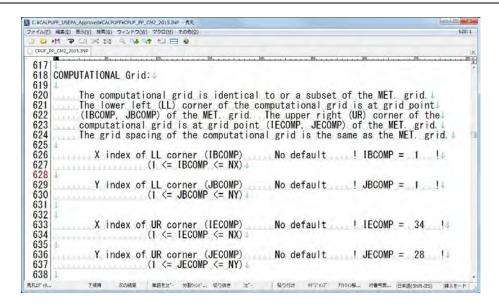
出力データの座標系 (DATUM) を設定する。CALMET 等と同じ設定にしなければならない。



入力する気象モデルデータのグリッドの個数 (NX、NY、NZ)、水平方向のグリッド間隔 (DGRIDKM)、グリッドを区分する高さ (ZFACE) 及びグリッドの左下の座標 (XREFKM、YREFKM) を設定する。CALMET 等と同じ設定にしなければならない。

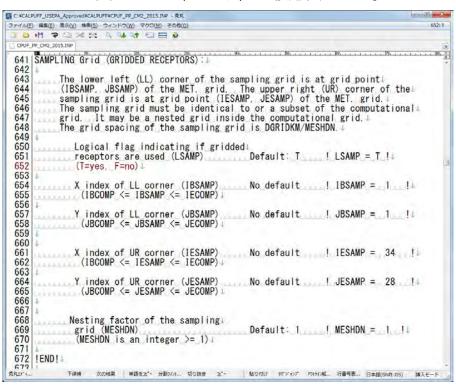


計算グリッドの範囲を設定する (IBCOMP、JBCOMP、IECOMP、JECOMP)。上記で指定した範囲内をグリッド番号で設定する。

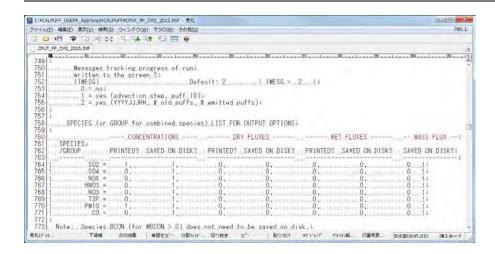


計算結果グリッドで出力する場合は、LSAMP を "T" として、出力するグリッドの範囲を設定する (IBSAMP、JBSAMP、IESAMP、JESAMP)。上記で指定した範囲内をグリッド番号で設定する。設定した範囲でのグリッド間隔を決めるための係数 (MESHDN) を設定する。

例: DGRIDKM が 5km で、計算結果を出力するグリッド間隔を 1km に設定したい場合、DGRIDKM/MESHDN が 1 となる MESHDN、つまり、5 と設定すればよい。



計算対象汚染物質のうち、LISTファイルに出力する対象の物質を指定する。



点源の発生源データの設定

13a において、発生源の個数 (NPT1)、排出量の単位 9 (IPTU)、排出パターンを指定する個数 (NSPT1) を設定する。NSPT1 は NPT1 に NSE (排出汚染物質数) を乗じた値である。

```
器 C:VCALPUFF_USEPA_ApprovedVCALPUFFNCPUF_PP_CMZ_2015.INP - 表見
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 検索(S) ウィンドウ(W) マクロ(M) その他(O
   OMPOXII GROPED
 1329 INPUT GROUPS: 13a, 13b, 13c, 13d -- Point source parameters
 1331
 1332 -----
1333 Subgroup (13a) 4
1334 -----
 1335
      Number of point sources with parameters provided below (NPT1) No default ! NPT1 = 5 !!
 1336
 1337
 1338
       Units used for point source
 1339
                                          (IPTU) Default: 1 ! IPTU = 1 !
       emissions below
       1 = g/s↓
2 = kg/hr↓
3 = lb/hr↓
 1341
 1342
 1343
       4 = tons/yrl
5 = Odour Unit * m**3/s (vol. flux of odour compound) b
6 = Odour Unit * m**3/minl
 1344
1345
 1346
 1347
1348
        7 = metric tons/yr
 1349
       Number of source-species
        combinations with variable 
emissions scaling factors provided below in (13d) (NSPT1) Default: 0 ! NSPT1 = 35 !
 1350
1351
 1352
             下接種 次の結果 単語を文 分割がけ 切り抜き 文 報り付け ゲンヤア 7554 概… 行番号表… 日本語(Shift-ITS) 挿入モード
```

13b において、発生源毎に発生源名称 (SRCNAM)、X 座標、Y 座標、煙突高さ、標高、煙突口径、排ガス速度、排ガス温度、物質別排出量 (X) を設定する。必要に応じて水平及び鉛直方向の拡散幅 (SIGYZI) を調整する。

⁹4の ton/yr はアメリカの測量法における ton であり、7 の ton/yr はメートル法における ton であるので、 厳密には異なることに注意する。モンゴルの場合は 7 を使うのが適当と考える。

```
ファイル(E) 編集(E) 表示(Y) 検索(S) ウィンドウ(W) マクロ(M) その形(Q)
0....
1365 Subgroup (13b)
1367
            POINT SOURCE: CONSTANT DATA
1368
1369
1370
1371
     Source X Y Stack Base Stack Exit Exit

No. Coordinate Coordinate Height Elevation Diameter Vel. Temp.
(km) (km) (m) (m) (m) (m/s) (deg. K)
                                                                   Bldg.
                                                                        Emissi
1372
1373
                                                                   Dwash
                                                                          Rates
      SRCNAM = stac0001 !! 

X = 635, 1054477, 5309, 4286464, 100, 1273, 5, 4, 11, 16, 543, 423, 15, 0, 2, 12048E+01, 1, 70894E+00 

S1GYZI = 1000, 20 !! 

ZPLTFM = 0 !! 

FMFAG = 1.0 !!
1374
1376
1377
1378
1379 1! FM
1380 !END!
1386
```

13d において、発生源毎に発生源名称 (SRCNAM)、排出パターンの形式 (IVARY)、排出物質別の排出パターンを設定する。IVARY は、時刻別 "1"、月別 "2"、季節別時間帯別 "3" 等の設定が可能である。設定しない場合は、排出パターンを一定とみなす。

面源の発生源データの設定

14a において、発生源の個数 (NAR1)、排出量の単位 (IARU)、排出パターンを指定する個数 (NSAR1)を設定する。NSAR1 は NAR1 に NSE (排出汚染物質数)を乗じた値である。

```
ファイル(E) 編集(E) 表示(Y) 映画(S) ウィンドウ(W) マクロ(M) その他(Q)
   1478 INPUT GROUPS: 14a, 14b, 14c, 14d -- Area source parameters
   1479
1480
   1483
1484
                                       Number of polygon area sources with \downarrow parameters specified below (NAR1) . No default ! NAR1 = 407 ! \downarrow
   1485
1486
   1487
1488
1489
1490
                                        Units used for area source
                                 emissions below (IARU) Default: 1 ! IARU = 1 ! = g/m**2/s= 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! ! = 1 ! = 1 ! = 1 ! ! = 1 ! = 1 ! ! = 1 ! = 
                                     1 =
2 =
3 =
   1491
                                                                                                   kg/m**2/hr l
lb/m**2/hr l
   1492
1493
1494
1495
1496
1497
1498
                                                                                            Odour Unit * m/s (vol. flux/m**2 of odour compound) Unit * m/min
                                                              4 = 5 =
                                                                                           metric tons/m**2/yr
                                        Number of source-species
   1499
1500
                                       combinations with variable emissions scaling factors provided below in (14d) (NSARI) Default: 0 ! NSARI = 2849 !
     1501
   1502
                                                            次の結束 単語を支*- 分割が64'... 切り抜き 支*- 貼り付け 97'V+27' 25'Hの幅... 行番号表... 日本語(Shith JES) 挿入モード
```

14b において、発生源毎に発生源名称 (SRCNAM)、有効排出高さ、標高、鉛直方向の拡散幅、物質 別排出量 (X) を設定する。

```
図 C:VCALPUFF_USEPA_Approved¥CALPUFF¥CPUF_ger_CM2_2015.INP - 表見

         ファイル(E) 機関(E) 表示(X) 検察(S) ウィンドウ
                                                                                1512 Subgroup (14b)
              1513 ---
                                                 AREA SOURCE: CONSTANT DATA
              1515
1516
              1518 Source Effect. Base Initial | 1519 No. Height Elevation Sigma z
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           Emission
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   Rates
              1520
                                                                                             (m)
                                                                                                                                                                                                                                 (m)
                                                                    SRCNAM = grd00001 ! ↓

X = 5, 1234, 50, 1. 02801E-09, 8. 28494E-11, 2. 67347E-10, 1. 00270E-12, 0, 1. 92827E-09, SRCNAM = grd00002 ! ↓

X = 5, 1480, 50, 1. 05718E-07, 8. 52007E-09, 2. 74934E-08, 1. 03116E-10, 0, 1. 98300E-07, SRCNAM = grd00003 ! ↓

X = 5, 1234, 50, 2. 01260E-08, 1. 62199E-09, 5. 23401E-09, 1. 96305E-11, 0, 3. 77510E-08, SRCNAM = grd00004 ! ↓

X = 5, 1232, 50, 5. 86127E-09, 4. 72372E-10, 1. 47448E-09, 6. 56192E-12, 0, 1. 26191E-08, SRCNAM = grd00005 ! ↓

X = 5, 1332, 50, 1. 41031E-08, 1. 13660E-09, 3. 54784E-09, 1. 57890E-11, 0, 3. 03634E-08, SRCNAM = grd00006 ! ↓

X = 5, 1584, 5, 50, 7. 27219E-08, 5. 86081E-09, 1. 89122E-08, 7. 09316E-11, 0, 1. 36407E-C SRCNAM = grd00007 ! ↓

X = 5, 1245, 50, 1. 24358F-07, 1. 00223F-08, 3. 23410F-08, 1. 21297F-10, 0. 2. 33264F-07, Fridam Acoust Market - 28500F-10 (100223F-08, 3. 23410F-08, 1. 21297F-10, 0. 2. 33264F-07, Fridam Acoust Market - 28500F-10 (100223F-08, 3. 23410F-08, 1. 21297F-10, 0. 2. 33264F-07, Fridam Acoust Market - 28500F-10 (100223F-08, 3. 23410F-08, 1. 21297F-10, 0. 2. 33264F-07, Fridam Acoust Market - 28500F-10 (100223F-08, 3. 23410F-08, 1. 21297F-10, 0. 2. 33264F-07, Fridam Acoust Market - 28500F-10 (100223F-08, 3. 23410F-08, 1. 21297F-10, 0. 2. 33264F-07, Fridam Acoust Market - 28500F-10 (100223F-08, 3. 23410F-08, 1. 21297F-10, 0. 2. 33264F-07, Fridam Acoust Market - 28500F-10 (100223F-08, 3. 23410F-08, 1. 21297F-10, 0. 2. 33264F-07, Fridam Acoust Market - 28500F-10 (100223F-08, 3. 23410F-08, 1. 21297F-10, 0. 2. 33264F-07, Fridam Acoust Market - 28500F-10 (100223F-08, 3. 23410F-08, 1. 21297F-10, 0. 2. 33264F-07, Fridam Acoust Market - 28500F-10 (100223F-08, 3. 23410F-08, 1. 21297F-10, 0. 2. 33264F-07, Fridam Acoust Market - 28500F-10 (100223F-08, 3. 23410F-08, 1. 21297F-10, 0. 2. 33264F-07, Fridam Acoust Market - 28500F-10 (100223F-08, 3. 23410F-08, 1. 21297F-10, 0. 2. 33264F-07, Fridam Acoust Market - 28500F-10 (100223F-08, 3. 23410F-08, 1. 21297F-10, 0. 2. 33264F-07, Fridam Acoust Market - 28500F-10 (100223F-08, 3. 23410F-08, 1. 21297F-1
            1521 ---
1522 1 !
             1522 1
1523 1
1524 2
1525 2
1526 3
1527 3
1528 4
1529 4
1530 5
              1531 5
1532 6
             1533 6
1534 7
```

14c において、発生源毎に発生源名称 (SRCNAM)、面源の 4 点の X 座標 (XVERT)、Y 座標 (YVERT) を設定する。それぞれ、左上、右上、右下、左下の順に設定する。

```
ファイル(E) 褐鳥(E) 表示(Y) 検索(S) ウィンドウ(M) マクロ(M) その他(Q)
 1 D HR 2 D M M M D E 9
  CPUF_ger_CM2_2015,INP
 2349 Subgroup (14c)
 2350
 2351
 2352
                      COORDINATES (km) FOR EACH VERTEX (4) OF EACH POLYGON
 2353
2354 Source
 2355 No. Ordered list of X followed by list of Y, grouped by source
 2356
 2357 1! SRCNAM = grd00001 ! ↓ 2358 1! XVERT = 623, 624, 624, 623 ! ↓ 2359 1! YVERT = 5300, 5300, 5299, 5299 !↓
 2360 | END! | 2361 | 2! SRCNAM = grd00002 ! | 4
2362 | 2! XVERT = 623, 624, 624, 623 ! | 4
2363 | 2! YVERT = 5301, 5301, 5300, 5300 | 4
2364 | END! | 4
 2365 3! SRCNAM = grd00003! 4
2366 3! XVERT = 623, 624, 624, 623! 4
2367 3! YVERT = 5302, 5302, 5301, 5301!
 2368 | END! | = 5308, 5308, 5307, 5307 | 1
 2373 5! SRCNAM = grd00005! 4
2374 5! XVERT = 623, 624, 624, 623 ! 4
2375 5! YVERT = 5309, 5309, 5308, 5308 ! 4
2376 !END! 4
 2377 6! SRCNAM = grd00006! ↓

PAT ... 下機構 次の機関 単語をよっ 分割のか... 切り放き ヹー 除り付け 577 *** 77947 株... 行題考表... 日本語(Sulfulfs) 挿入モード
```

14d において、発生源毎に発生源名称 (SRCNAM)、排出パターンの形式 (IVARY)、排出物質別の排出パターンを設定する。IVARY は、時刻別 "1"、月別 "2"、季節別時間帯別 "3" 等の設定が可能である。設定しない場合は、排出パターンを一定とみなす。

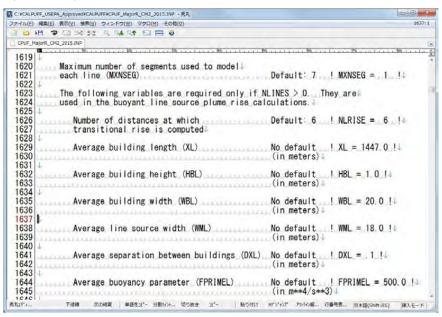
線源の発生源データの設定

15a において発生源の個数 (NLINES)、排出量の単位 (ILNU)、排出パターンを指定する個数 (NSLN1)を設定する。NSLN1 は NLINES に NSE (排出汚染物質数)を乗じた値である。

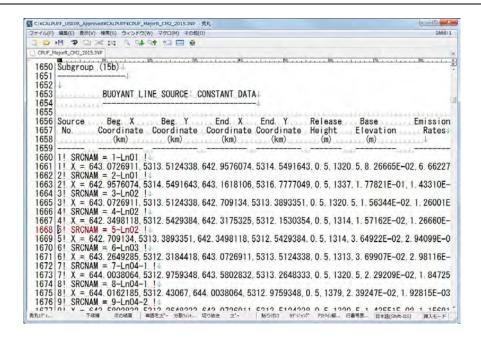
```
TO CHICAL PLIEF LISEPA Approved WCALPRIFFNOPLIF Motors, CM2 2015 INP - EST
ファイル(E) 編集(E) 表示(Y) 横葉(S) ウィンドウ(W) マクロ(M) その信(Q)
□ # 7 □ × :: 9 9 9 9 0 = 9
 1588
  1589 INPUT GROUPS: 15a, 15b, 15c -- Line source parameters
 1590
 1591
 1592
  1593 Subgroup (15a) 4
 1594
  1595
       with variable location and emission parameters (NLN2)
 1596
1597
                                                              No default ! NLN2 = 0 !
  1598
 1599
1600
       (If NLN2 > 0. ALL parameter data for these sources are read from the file: LNEMARB.DAT) ↓
  1601
1602
       Number of buoyant line sources (NLINES) No default ! NLINES = 195 .!+
 1603
1604
  1605
1606
       Units used for line source
       emissions below
                                       (ILNU) Default: 1 ! ILNU = 1 !4
        1 = g/sl
2 = kg/hr
3 = lb/hr
  1607
        3 =
  1609
       4 = tons/yr
       5 = Odour Unit * m**3/s (vol. flux of odour compound) ↓
6 = Odour Unit * m**3/min↓
 1611
       7 =
 1613
                           metric tons/yr
 1614
1615
       Number of source-species
            combinations with variable emissions scaling factors
 1616
1617
 1618
1619
        provided below in (15c) (NSLN1) Default: 0 ! NSLN1 = 1170 !
 1620
            Maximum number of segments used to model レ

干機機 次の機関 単語を式・分割のか… 切り抜き xi- 貼り付け 95%が 705の能… 行輩号表… 日本版(shith.lis) 郷スモード
```

建物の平均長さ (XL)、平均高さ (HBL)、平均幅 (WBL)、線源の幅 (WML)、建物間の距離 (DXL)、浮力パラメータ (FPRIMEL) を設定する。



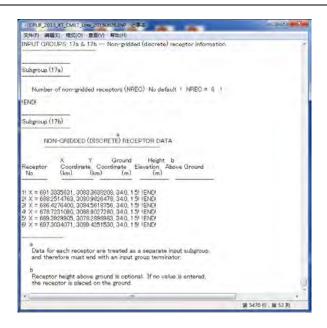
15b において、発生源毎に発生源名称 (SRCNAM)、始点 XY 座標、終点 XY 座標、排出高さ、標高、物質別排出量(X)を設定する。



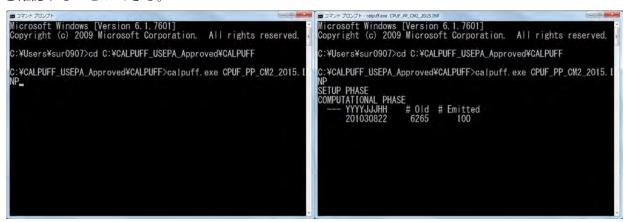
15c において、発生源毎に発生源名称 (SRCNAM)、排出パターンの形式 (IVARY)、排出物質別の排出パターンを設定する。IVARY は、時刻別 "1"、月別 "2"、季節別時間帯別 "3" 等の設定が可能である。設定しない場合は、排出パターンを一定とみなす。

```
| Comparison of Comparison of California (California (
```

必要に応じて、グリッド以外 (例:大気環境測定局) での濃度計算点の個数 (NREC)、各濃度計算点の X 座標、Y 座標、標高、測定高さ(X)を設定する。



コマンドプロンプトの画面で CALPUFF のフォルダに移動し、calpuff.exe <入力ファイル名>.INP と 入力して、Enter を押す (ここでは CPUF_PP_CM2_2015.INP)。計算が開始されると、計算実施経過を確認することができる。



"TERMINATION PHASE" のメッセージが出てきて計算が終了したら、出力ファイルが作成されているかどうか確認する。このケースでは "CPUF_PP_CM2_2015_CON" である。



6.2 計算結果の出力

6.2.1 概要

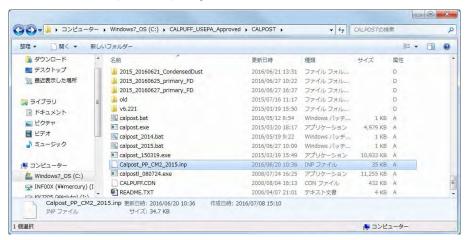
CALPUFF の計算結果はデータが圧縮されているため、メモ帳等のテキストエディタでは開くことが出来ない。そこで、CALPOST プロセッサを使って圧縮されたデータからグリッド別或いは指定地点毎の計算濃度を抽出する。

CALPOST では、入力ファイルと出力ファイル、計算期間、出力対象物質、出力範囲、計算結果を 平均する期間 (1 時間平均、日平均、年平均など) を設定する。

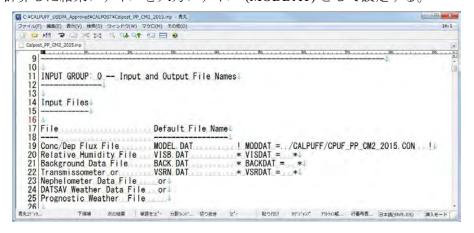
NOx で CALPUFF の計算を実施しているが、環境基準は NO2 である。そこで、NOx から NO2 に変換する式を設定する。CALPOST での変換式は[NO2]=a [NOx]であり、a の値について、中国では、環境影響評価に関する基準書により 0.75 と指定されているが 10 、モンゴルの現状に即した値を検討することが必要である。

6.2.2 実施方法

CALPOST フォルダ内の INP ファイルを開く。

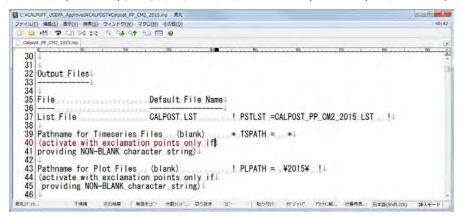


CALPUFFで計算した結果ファイルを入力ファイル (MODDAT) として設定する。

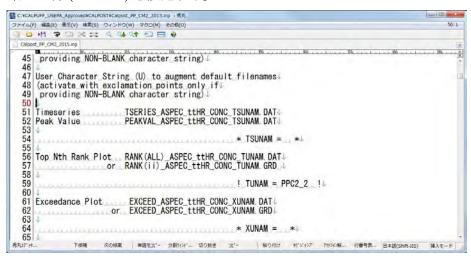


^{10 「}环境影响评价技术守则 大气环境」(HJ2.2-2008)

出力リストファイル名 (PSTLST)、計算結果の出力先フォルダ (PLPATH) を設定する。



出力ファイル名の一部 (TUNAM) を設定する。

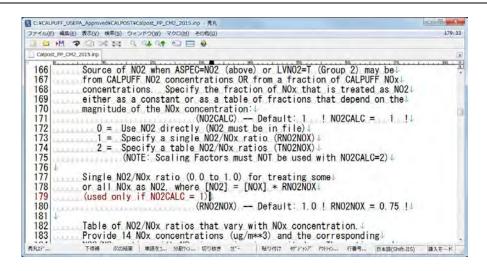


集計対象期間を設定する (METRUN)。"0"を設定した場合、計算開始及び計算終了日時を設定しなければならない (ISYR、ISMO、ISDY、ISHR、ISMIN、ISSEC、IEYR、IEMO、IEDY、IEHR、IEMIN、IESEC)。"1"を設定した場合、CALPUFFで計算した期間が計算対象期間となる。また、タイムゾーン (BTZONE) を設定する。

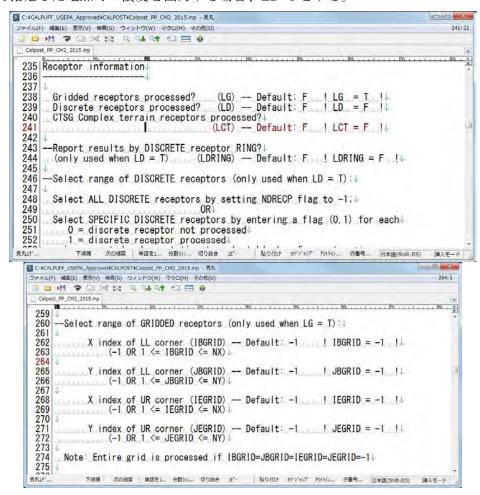
```
國 C:VCALPUFF USEPA ApprovedVCALPOSTVCalpost PP CM2 2015.inp - 秀丸
 ファイル(E) 編集(E) 表示(Y) 検察(S) ウィンドウ(W) マクロ(M) その他(Q)
  O D H P D X SS R R R CO E D
  Calpost_PP_CM2_2015.inp
   108 INPUT GROUP: 1 -- General run control parameters
   109
                Option to run all periods found in the met. file(s) (METRUN) Default: 0 ! METRUN = 1 !
   111
               METRUN = 0 - Run period explicitly defined below↓
METRUN = 1 - Run all periods in CALPUFF data file(s)↓
   115
   116
                                               Year (1SYR) --
Month (1SMO) --
Day (1SDY) --
Hour (1SHR) --
                                                                                                           ISYR = 1990 !↓
ISMO = 0 !↓
ISDY = 0 !↓
ISHR = 0 !↓
            Starting date:
                                                                                  No default
                                                                                  No default
   120
                 Starting time:
                                                                                  No default
                                               Minute (ISMIN) --
Second (ISSEC) --
   121
                                                                                                            ISMIN =
   122
                                                                                                           ISSEC =
                                                                                  No default
   123
                Ending date:
                                                            (IEYR)
                                                                                                           IEYR = 0
                                               Year
                                                                                  No default
                                                           (IEMO)
(IEDY)
(IEHR)
                                                                                                           IEMO = 0
IEDY = 0
IEHR = 0
                                                Month
                                                                                  No default
                                               Day
Hour
   126
                                                                                  No default
                 Ending time:
                                                                                  No default
   128
129
                                               Minute (IEMIN)
Second (IESEC)
                                                                                  No default !
                                                                                                           IEMIN =
   130
131
                (These are only used if METRUN = 0) |
   132
133
134
135
                 All times are in the base time zone of the CALPUFF simulation. \downarrow CALPUFF Dataset Version 2.1 contains the zone, but earlier versions do not, and the zone must be specified here. The zone is the lumber of hours that must be ADDED to the time to obtain UTC (or GMT). \downarrow Identify the Base Time Zone for the CALPUFF simulation. (BTZONE) — No default ! BTZONE = -8.0 ! \downarrow
   136
137
   139
                    下條補 次の極限 単語を3... 分割が... 切り抜き 3.*・ 貼り付け 975 707 7950... 行番号... 日本語(Shift,JIS) 挿入モード
```

集計対象物質 (ASPEC) を設定する。集計対象物質として NO2 を設定した場合、NOx から変換するための係数 (RNO2NOX) を設定する。中国の環境影響評価指標では、RNO2NOX=0.75 である。

```
图 C:YCALPUFF_USEPA_ApprovedYCALPOSTYCalpost_PP_CM2_2015.inp - 秀丸
ファイル(E) 編集(E) 表示(Y) 検索(S) ウィンドウ(W) マクロ(M) その他(Q)
 1 5 M 2 C X X C Q Q Q C C E 0
 147
 148
      Species to process (ASPEC) — No def
(ASPEC = VISIB for visibility processing)↓
 149
                                                -- No default | ASPEC = PM10 | |
  151
      Layer/deposition code (ILAYER) -- Det
'1' for CALPUFF concentrations, ↓
'-1' for dry deposition fluxes, ↓
'-2' for wet deposition fluxes, ↓
'-3' for wet+dry deposition fluxes. ↓
                                               -- Default: 1 ! ILAYER = 1 !
 153
154
  155
  156
      158
  159
  160
  161
      Add Hourly Background Concentrations/Fluxes?
 162
                                      (LBACK) -- Default: F ! LBACK = F ! ...
  163
 164
```



計算結果の出力対象を設定する。グリッドでの計算結果を出力する場合、LG=T とし、計算結果の出力対象範囲をグリッド番号で設定する (IBGRID、JBGRID、IEGRID、JEGRID)。一方、測定局等 CALPUFF で指定した地点での濃度を出力する場合、LD=T とする。



出力濃度の単位 (IPRTU) を指定する。

```
题 C:#CALPUFF USEPA ApprovedVCALPOSTVCalpost PP CMZ 2015.inp - 秀丸
 ファイル(E) 機能(E) 表示(X) 株長(S) ウィンドウ(W) マグロ(M) その他(Q)
                                                                                                        606:1
  601 INPUT GROUP: 3 - Output options
  602
  604 Documentation
  605
           Documentation records contained in the header of the CALPUFF output file may be written to the list file. Print documentation image?
  607
  609
  610
                                  (LDOC) -- Default: F ! LDOC = F!
  612 Output Units
           Units for AII Output (IPRTU) — Default: 1 ! IPRTU = 3 ! \downarrow for for
  614
                          for
Concentration
                                              Deposition
  616
  617
                       g/m**3
                                              g/m**2/sl
  618
619
               2 = 3 =
                                           mg/m**2/s
ug/m**2/s
                            mg/m**3
                       ug/m**3
                         ng/m**3 ng/m**2/s↓
Odour Units↓
  620
621
               4 =
5 =
           Visibility: extinction expressed in 1/Mega-meters (IPRTU is ignored)
  623
               下候補 次の種草 単語を2... 分割26... 切り抜き ガー | 私り付け 475'927 79(56... 行番号... 日本語(Shin-JIS) | 挿入モード
```

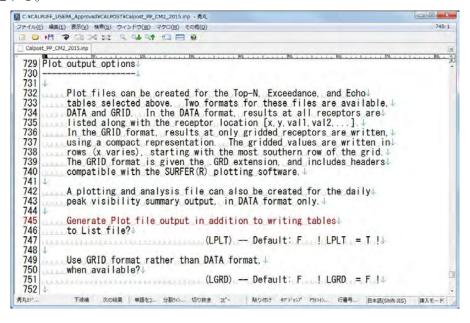
1 時間平均 (L1HR)、3 時間平均 (L3HR)、24 時間平均 (L24HR)、計算対象期間すべての平均 (LRUNL)を計算するフラグを設定する。選択する平均対象期間のみ "T" とし、その他は "F" とする。

```
题 C:¥CALPUFF_USEPA_Approved¥CALPOST¥Calpost_PP_CM2_2015.inp - 秀丸
ファイル(E) 編集(E) 表示(Y) 検索(S) ウィンドウ(W) マクロ(M) その他(Q)
 625
 626 Averaging time(s) reported
 628
 629
                             (L1PD) -- Default: T ! L1PD = F !
     (L1PD) -- Defaul
(pd = averaging period of model output)
        1-pd averages
 630
 631
      1-hr_averages (L1HR) -- Default: T__!_L1HR = F__!
 633
      3-hr averages (L3HR) -- Default: T ! L3HR = F !!
 635
       24-hr averages (L24HR) -- Default: T ! L24HR = F !
 637
638
      Run-length averages (LRUNL) -- Default: T ! LRUNL = T !!
 639
640
     User-specified averaging time in hours, minutes, seconds
 641
642
                             643
 646
          下核補 次の結果 単語を3... 分割の2... 切り抜き ま・ | 知り付け 977 t27 アバラ(2... 行番号... 日本語(Shift-JIS) | 挿入モード
美丸15
```

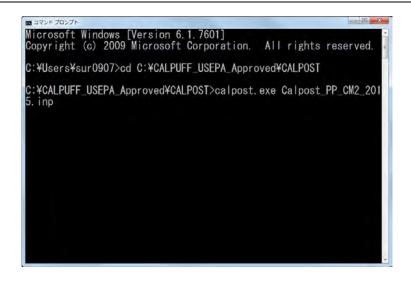
各地点の平均濃度のうち、上から第N位までの濃度を出力する設定をする。

```
國 C:VCALPUFF USEPA ApprovedVCALPOSTVCalpost PP CM2 2015.ing - 表現
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 検索(S) ウィンドウ(W) マクロ(M) その何(O)
                                                                                                              659:27
 I O M P O X X Q Q Q O D D
  658
          2) Top 50 table for each averaging time selected [List file only]
  659
  661
                                         (LT50) -- Default: T ! LT50 = F !
  662
        3) Top 'N' table for each averaging time selected↓
[List file or Plot file]↓
(LTOPN) -- Default: F ! LTOPN = T !↓
  663
664
  665
  666
        — Number of 'Top-N' values at each receptor↓
selected (NTOP must be <= 4) ↓
(NTOP) -- Default: 4 ! NTOP = 1 !↓
  668
 670
671
672
673
                   - Specific ranks of 'Top-N' values reported
        (NTOP values must be entered) | (ITOP (4) array) -- Default: ! ITOP = 1 !!
  674
675
               下傾補 次の結果 単語を1... 分割の2... 切り抜き χ*- | 貼り付け 97ッドのア 70.502... 行番号... 日本語(Shift,IIS) 挿入モード
 英丸巧
```

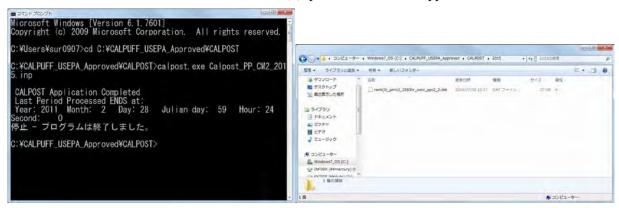
出力ファイルの表示形式を設定する。リスト形式 (LPLT) 或いはグリッド形式 (LGRD) いずれかを "T" に設定する。



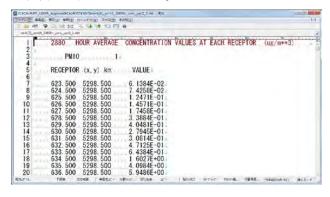
コマンドプロンプトの画面で CALPOST のフォルダに移動し、calpost.exe <入力ファイル名>.INP と 入力して、Enter を押す (ここでは Calpost_PP_CM2_2015.INP)。



"Stop – Program terminated"のメッセージが出てきて計算が終了したら、出力ファイルが作成されているかどうか確認する。このケースでは "rank(0)_pm10_2880hr_conc_ppc2_2.dat"である。



出力ファイルを開くと以下の画面が表示される。計算点の X 座標、Y 座標、計算点での濃度が 7 行目以降に出力されている。



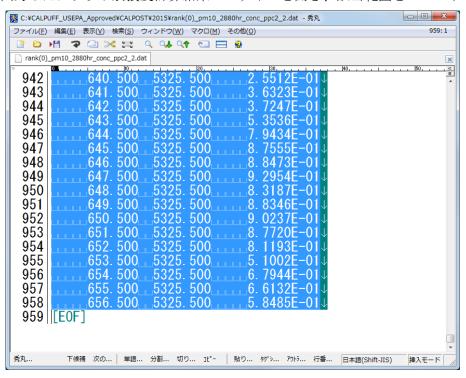
6.3 計算結果の集計

6.3.1 概要

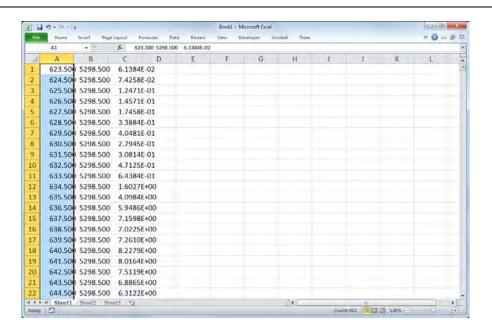
6.2 で出力した発生源種類ごとに計算した結果を以下のような表にまとめ、グリッド別の合計濃度を計算する。この集計には、Excel 或いは Access を用いる。この集計結果は、モデルの精度確認、濃度分布図等の作成、及び排出削減計画の評価に使用される。

6.3.2 実施方法

CALPOST で出力したグリッド別濃度計算結果のファイルを開き、該当範囲をコピーする。



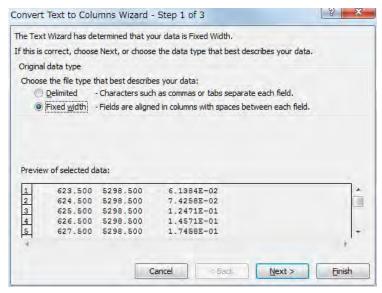
Excelファイルを開き、コピーしたデータを貼り付ける



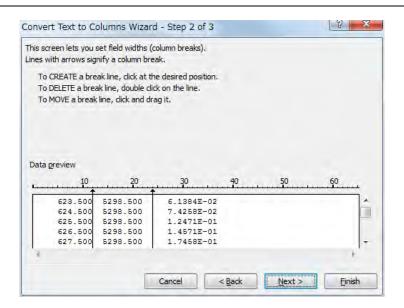
貼り付けた行を選択し、[データ]-[区切り位置]をクリックする。



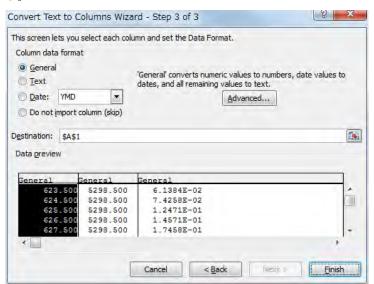
[Original data type]で、[Fixed width – Fields are aligned in columns with spaces between each field] を選択し、[Next]をクリックする。



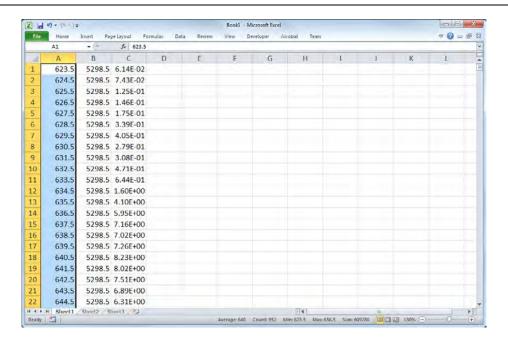
データのプレビューを確認し、黒矢印の線が数値をまたいでいないかを確認する。またいでいた場合、矢印をドラッグしながら移動し調整する。調整ができたら [Next] をクリックする。



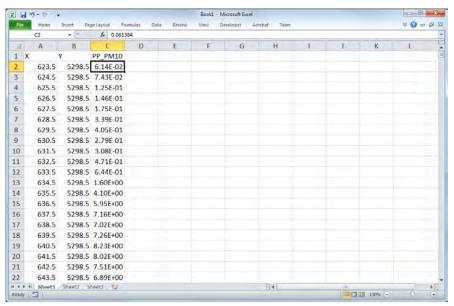
[Finish]をクリックする。



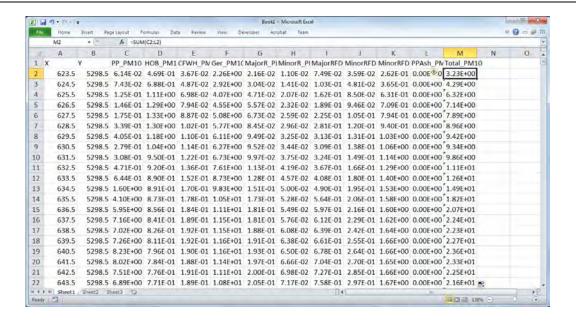
区切り位置に合わせてそれぞれの列にデータが分割される。



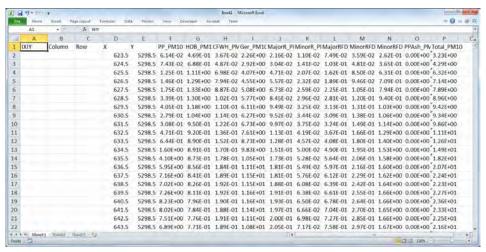
先頭行に1行挿入し、各列に列タイトルを付ける。



他の発生源も同様に計算結果を Excel に貼り付け、最右列にグリッド別合計排出量を計算する。



1列目に3列挿入し、左から IXIY、Column、Row と列タイトルを付ける。



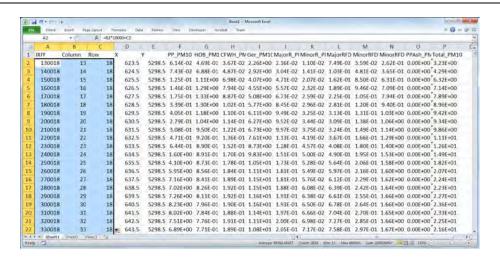
追加した列を計算する。

IXIY=Column*1000+Row

Column=X 座標 - 左下基準 X 座標 + 0.5

Row=Y座標-左下基準Y座標+0.5。

この表を使って発生源別寄与濃度断面図を作成したり、表を Access にインポートして濃度分布図を作成したりすることができる。



6.4 計算値と実測値の比較及びモデルの精度向上検討

大気拡散シミュレーションモデルの精度を評価するために、大気拡散シミュレーションモデルでの計算値と大気常時監視測定局での実測値の相関図を作成する。ただし、実測値が有効時間数に達している大気常時監視測定局が 3 地点以下の場合、この方法で求められた値は参考程度となり、評価に使うことができない。横軸を計算値、縦軸を実測値とした場合の分布図を作成し、切片が 0 の近似直線を引く。発生源の影響を受けない地点での大気常時監視測定局のデータがある場合は、その地点でのデータの濃度を切片の値とする。この値をバックグラウンド濃度という。

この時、近似直線の傾きが 0.8 から 1.2 の範囲内でできるだけ 1 に近く、かつ、相関係数が 0.71 以上であることが、大気拡散シミュレーションモデルでの計算が高精度で実際の状況をより再現できていることになる。一方、相関係数が 0.71 未満である場合、計算値と実測値の整合性が取れていないことになる。また、近似直線の傾きが 1.2 より大きい場合、或いは 0.8 より小さい場合、大気拡散シミュレーションモデルの計算は過小評価或いは過大評価していることになる。いずれの場合でも大気拡散シミュレーションモデルの計算結果の精度は良くないので、気象データや発生源データ等の入力データの設定を見直した上で再度拡散計算を実施することが必要である。

可能であれば、地点間の相関だけではなく、同一地点における時間別濃度の相関性も検証することを推奨する。例えば、1時間濃度の時間変化や月平均濃度の月別変化について実測値と計算値を比較することで、その地点における濃度変化の相関性を検証することができる。月平均濃度の実測値と計算値の比較の例を図 6.4-1 に示す。

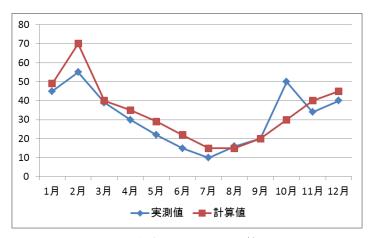
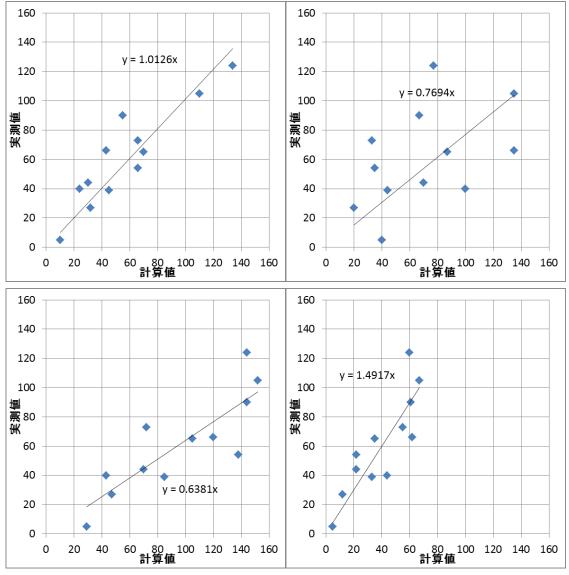


図 6.4-1 月平均濃度の実測値と計算値の比較の例



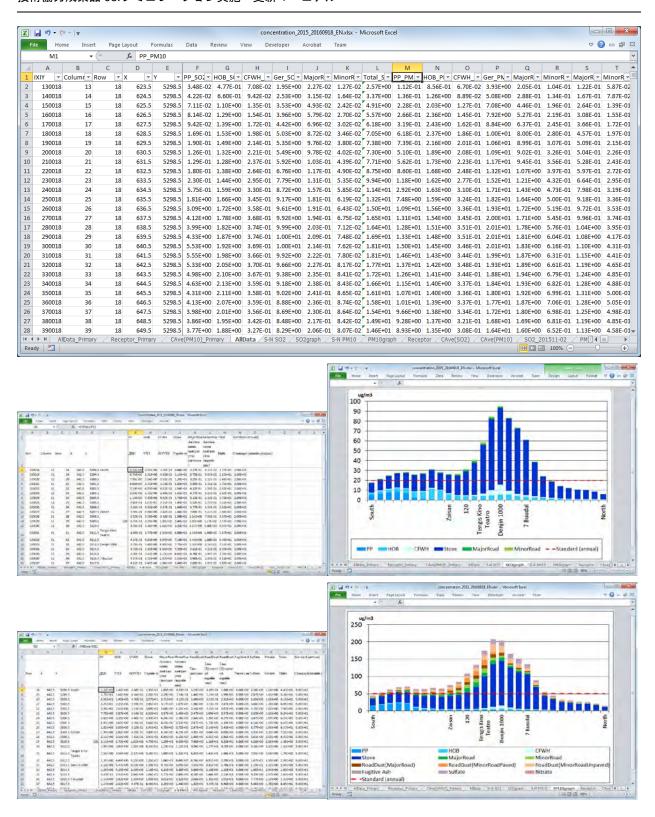
左上:精度の良い大気拡散シミュレーションモデル(相関係数:0.909)、右上:相関が良くない(相関係数:0.471)

左下:計算結果が過大(相関係数:0.839)、右下:計算結果が過小(相関係数:0.851)

図 6.4-2 実測値と計算値の比較例

6.5 発生源別寄与濃度断面図の作成

AllData シートの計算結果を更新すると、S-N SO2 シート及び S-N PM10 シートに更新が反映される。これらのシートは発生源別寄与濃度断面図を作成するためのデータリストであり、これらのシートの値が更新されると、SO2graph 及び PM10graph シートに作成されている発生源別寄与濃度断面図が更新される



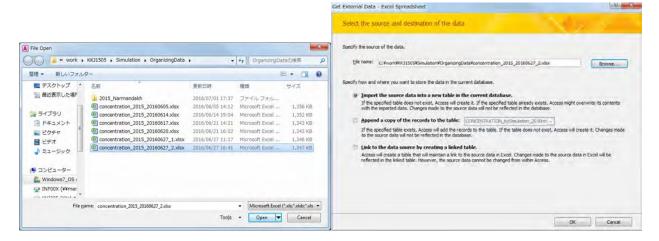
6.6 濃度分布図の作成

6.6.1 計算結果集計ファイルの Access へのインポート

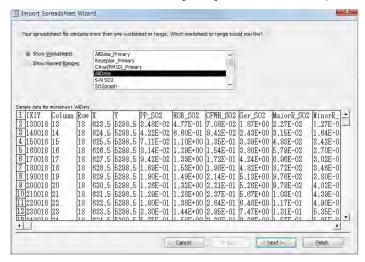
Simulation.mdb を開き、[External Data] のタブを選択し [Import & Link] の [Excel] を選択する。



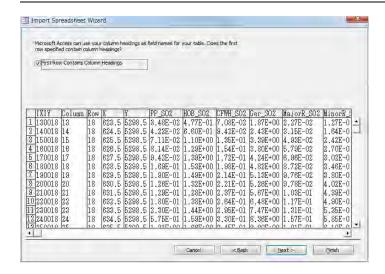
[Browse] をクリックし、計算結果集計ファイルを選択して [OK] をクリックする。



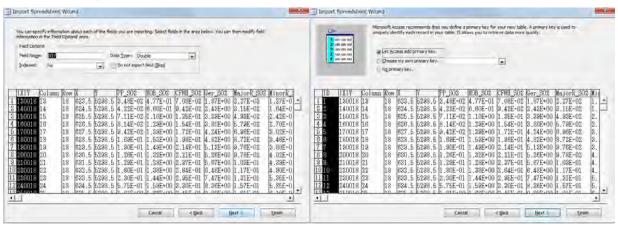
集計結果シートを選択して [Next] をクリックする (ここでは [AllData] シート)。



[First Row Contains Column Headings] にチェックが入っているかを確認し、[Next] をクリックする。

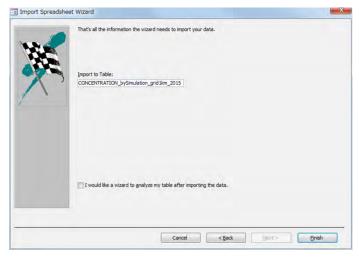


[Let Access add primary key.] を選択し、[Next] をクリックする。

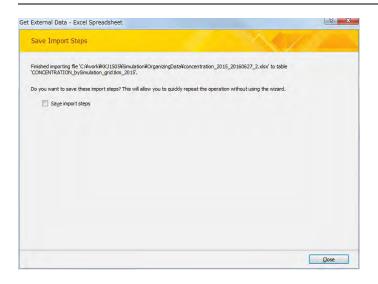


テーブル名を入力し、[Finish] をクリックする。

(ここでは CONCENTRATION_bySimulation_grid1km_2015)

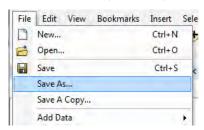


[Close] をクリックする。



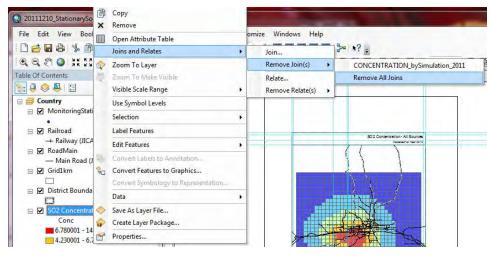
6.6.2 濃度分布図の作成

テンプレートファイルを開いて、[File]-[Save As]をクリックして、別名で保存する。

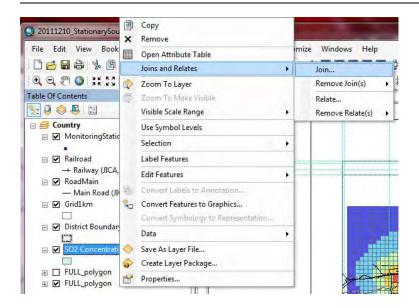


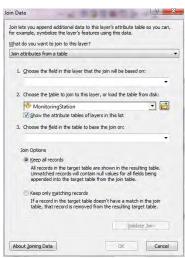
"SO2 Concentration"レイヤーにグリッド別排出量のテーブルを結合する。

すでに結合しているテーブルがあったら、[Joins and Relates]-[Remove Join(s)]-[Remove All]を選択して既存のテーブルの結合を解除する。

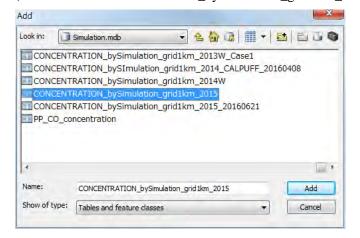


"SO2 Concentration" のレイヤーで右クリックし、[Joins and Relates]-[Join]を選択する。

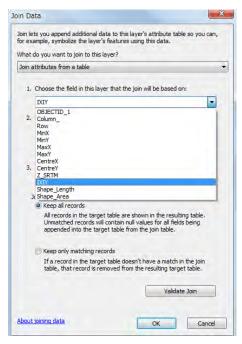




結合するグリッド別濃度テーブルを選択し、[Add] をクリックする。 (ここでは CONCENTRATION_bySimulation_grid1km_2015 テーブル)



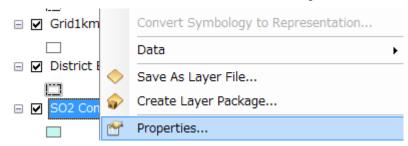
[2.] のドロップダウンボックスに選択したテーブル名が入力される。[1.] のドロップダウンボタンをクリックし [IXIY] を選択すると、 [3.] にも「IXIY」が自動で入力されたのを確認して [OK] をクリックする。



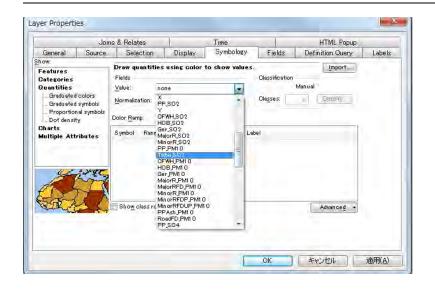
以下の画面が現れることがあるが、[No]をクリックする。



"SO2 Concentration" レイヤーで右クリックし、[Properties]をクリックする。



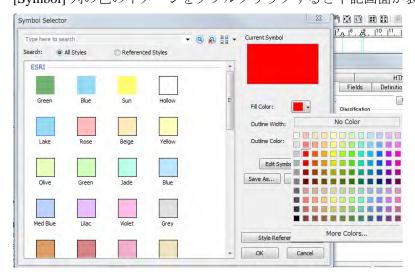
[Symbology] タブをクリックし、[Quantities]-[Graduated colors]を選択する。Value のドロップダウンボタンをクリックして、対象の列名を選択する (ここでは[Total_SO2])。



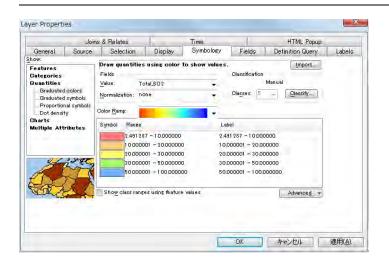
[Color Ramp]で分布図に使う配色パターンを選択する。ランクの[Range]をクリックして、ランクの上限値を入力する。



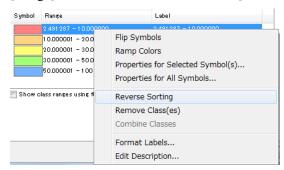
[Symbol] 列の色のイメージをダブルクリックすると下記画面が表示され、自分で色を選択できる。



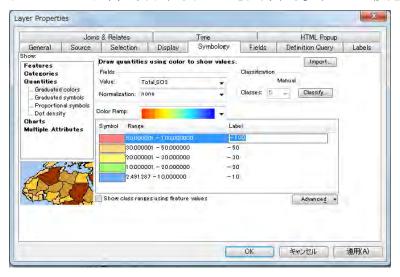
ランクや色を選択した結果は以下の通りである。



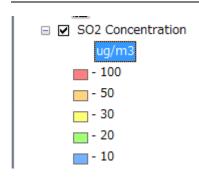
[Range]の列の上で右クリックをして[Reverse Sorting]をクリックすると、ランクの表示順が逆転する。



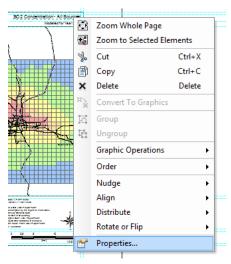
ランクごとに凡例に表示するラベルを入力する。すべての設定が終わったら [OK] をクリックする



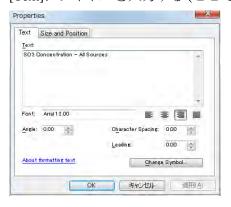
"SO2 Emission"レイヤーの "Total SO2" を編集可能状態にして "ug/m3" に変更する。



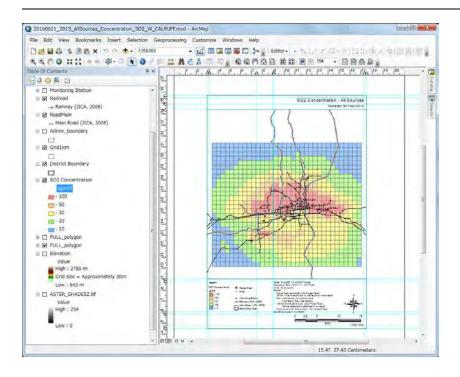
図のタイトルを変更する。タイトルにカーソルを合わせて右クリックをし、[Properties]をクリックする。



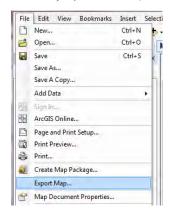
[Text]にタイトルを入力する (ここでは "SO2 Concentration – All Sources")。



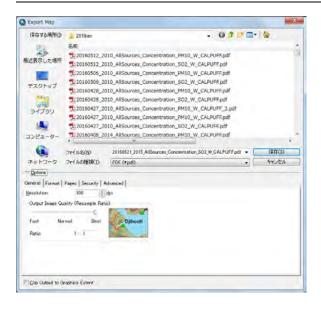
ArcGIS による濃度分布図が作図される。



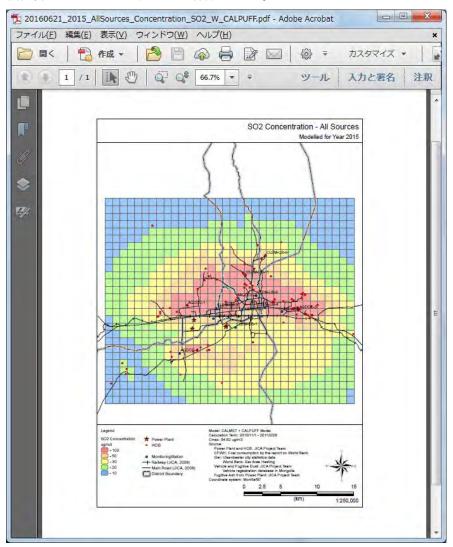
PDFファイルへのエクスポートをするには[File]-[Export Map]をクリックする。



保存先及びファイル名を指定し、[Save]をクリックする。



濃度分布図の PDF ファイルが作成される。



7 <u>凝縮性ダストを考慮した PM10 排出量推計及び拡散計算の実施方法</u>

7.1 経緯

これまでのモデルでは、各種汚染物質の中で PM のみ、シミュレーションで計算した濃度と比較して測定局で測定した濃度が有意に高かった。測定局の機材の誤差、排出係数の誤差、二次生成の寄与が大きい等様々な可能性が考えられたため、その解明のため、FRM サンプラーを用いて大気中のダストを採取し、採取したダストの成分分析も実施した。その結果、冬季に採取したダスト中において POM (Particulate Organic Matter; 粒子状有機物)と硫酸塩が主要発生原種であり、主たる発生源は燃料燃焼による揮発性有機物であることが示された(図 7.1-1)。この結果から、これらの発生源は、凝縮性ダストによる影響が大きいと考えられるようになった。

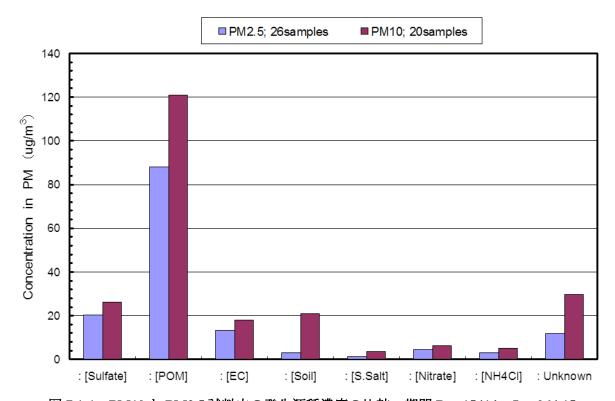


図 7.1-1 PM10 と PM2.5 試料中の発生源種濃度の比較:期間 Dec.15,'14~Jan.06,',15

また、2016年2月のセミナーで溝畑専門家がこれまでに観測で得られた季節毎のPM化学成分分析データを対象にPMF(Positive Matrix Factorization)解析を試みて、得られた結果を紹介した。発生源因子数は不明であり、4~8因子までを試行錯誤した結果、最終的には7発生源因子からなる発生源プロファイルとそれらの寄与濃度が導出された。

7.2 凝縮性ダストを考慮した排出量計算の方法

7.2.1 PM10 生成過程の概要

PM10 の生成過程についての模式図を図 7.2-1 に示す。PM10 の生成過程は以下の 3 つの過程が考えられる。

1. 一次粒子生成過程

燃料の燃焼或いは巻上げ粉じんにより発生した粒子を一次粒子とする。また、煙道内で排ガス中の水分が SO2 及び NO2 と反応することで硫酸及び硝酸となり、煙道中で凝縮して粒子化する過程も一次粒子に含む。

2. 凝縮性ダスト生成過程

煙道内での気体或いは液体 (揮発性物質や水蒸気等) が大気中で急激に冷却及び混合されて凝縮し、 粒子化したものを凝縮性ダストという。

3. 化学反応による二次粒子生成過程

燃料の燃焼による発生源において、大気中に排出されたのち、化学変化によって生成された粒子 を二次粒子という。

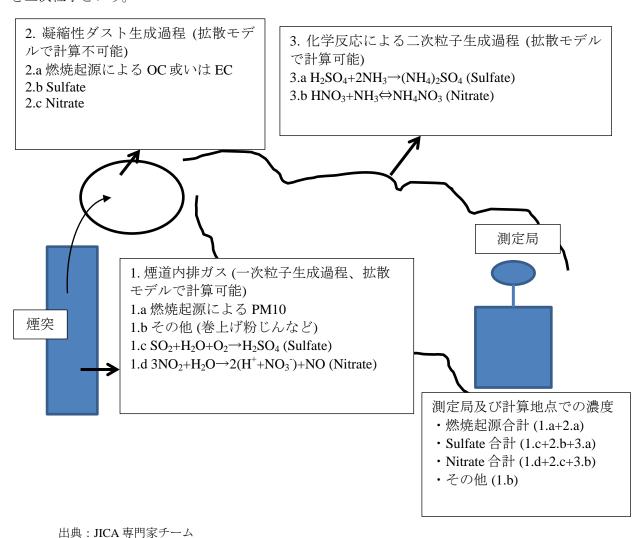


図 7.2-1 PM10 の生成過程についての模式図

7.2.2 凝縮性ダストを考慮した PM10 排出量推計方法

排ガス測定及び排出モニタリングに基づいた排出係数では上記の 1.a 及び 1.b しか計算できない。また、CALPUFF には凝縮性ダスト生成過程が考慮されていない。そのため、凝縮性ダストを考慮した PM10 排出量を計算するに当たり、1.c、1.d 及び 2.a~2.c の過程による PM10 生成量の推計方法を検討し、以下の通り設定する。

1. 排ガス測定・排出モニタリングに基づいた排出係数で計算した PM10 排出量 (1.a, 1.b)

排ガス測定・排出モニタリング結果に基づいた排出係数に石炭使用量などの活動量を乗じて発生 源別のPM10排出量を計算する。

2. 煙道内で凝縮して粒子化する過程 (1.c, 1.d)

煙道における SO2 から SO4 への反応 (1.c)及び NO2 から NO3 への反応 (1.d)による PM10 の生成量を計算する。

煙道における SO2 から SO4 への反応割合を 5.0% と設定し 11 、以下の計算で反応後の SO2 及び SO4 の排出量を計算する。

反応後の SO4 排出量=発生源インベントリでの SO2 排出量*5/100*98/64

反応後の SO2 排出量=発生源インベントリでの SO2 排出量*(1-5/100)

また、発生源で採取したサンプルの成分分析による NO3 の割合を用いて PM10 中に含まれている NO3 排出量を推計する (表 7.2-1)。この計算結果を PM10 濃度として加える。

NO3 排出量=PM10 排出量*発生源別 NO3 割合/100

発生源割合 (%)火力発電所0.07HOB0.18CFWH0.04家庭用小型ストーブ0.08自動車排出ガス0.00

表 7.2-1 成分分析による発生源別 NO3 割合

出典: JICA 専門家チーム

3. 凝縮性ダスト生成過程 (2.a~2.c)

凝縮性ダスト生成過程を考慮した発生源別排出量を推計するために、一次粒子及び二次粒子生成過程のみを考慮した拡散計算による濃度と測定局での一般環境中の PM10 濃度平均と PMF での発生源別寄与割合を用いる。

一次粒子及び二次粒子生成過程のみを考慮した拡散計算による濃度を C_1 、測定局での一般環境中の PM10 濃度を C_{AQ} 、 PMF での発生源別寄与割合を A%とすると、 PMF に基づく測定局での一般環境中における PM10 発生源別濃度 C_S 、及び発生源インベントリでの排出量に凝縮性ダスト生成過程を考慮した排出量を推計するための割合 R は以下の式で計算する。R を発生源インベントリの排出量に乗じることで、凝縮性ダスト生成過程を考慮した排出量を推計する (図 7.2-2 及び図 7.2-3)。

$$C_S = C_{AO} \times A/100$$

 $R = C_S/C_1$

11 浮遊粒子状物質汚染予測マニュアル 浮遊粒子状物質対策検討会 1997 年

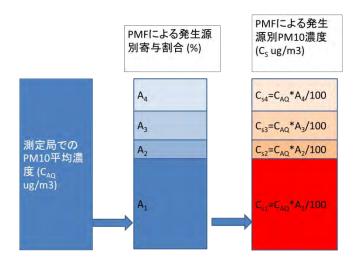
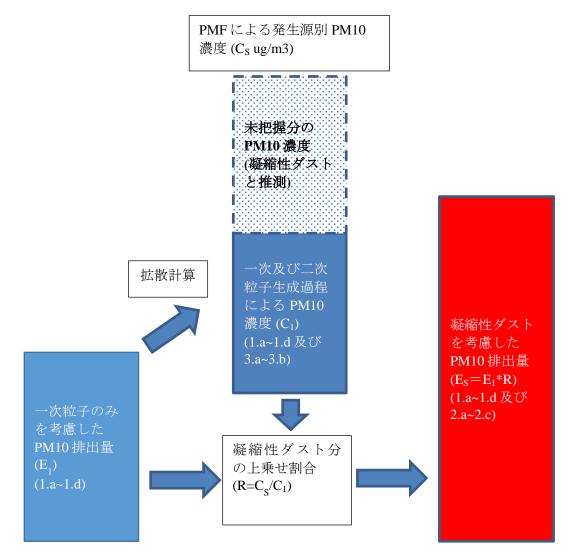


図 7.2-2 PMF での結果に基づく測定局での PM10 発生源別濃度推計イメージ



出典: JICA 専門家チーム

図 7.2-3 凝縮性ダストを考慮した PM10 排出量の推計イメージ

PMF での発生源別寄与割合は、2016年2月2日のセミナーで発表された冬期の PM10 の結果を用いる。発生源別寄与割合を表 7.2-2 に示す。発生源インベントリでの発生源別排出量 E_1 に発生源別に計算した E_2 を乗じて、凝縮性ダストを仮想的に上乗せした排出量 E_3 を計算する。上記に基づいて計算した発生源別の E_3 及び E_3 を表 7.2-3 に示す。

表 7.2-2 で規定されている 7 種類の発生源因子のうち、LF7-3 及び LF7-7 は粒子状物質であり、凝縮性ダストが生成されないと考えられるため、また、LF7-2 及び LF7-3 は寄与割合が小さいため、凝縮性ダスト発生源由来から除外する。LF7-2 について、UB 市内に廃棄物焼却炉はなく、一般廃棄物は野焼きによって焼却されている。一方、ゲルストーブでのタイヤ燃焼等の可能性も指摘されているものの、その原因については更なる検討が必要とされている。

LF7-3 について、セメント成分はビル建設中の建物が多くセメント成分の寄与が大きくなりやすい可能性があると JICA 専門家が指摘しているが、寄与割合が 1.6%と少ないことから排出量の推計・寄与のモデル化から除外する。

これらの理由により、凝縮性ダストの発生源由来は石炭燃焼起源、自動車排出ガス、Sulfate 及び Nitrate の 4 種類に絞る。

表 7.2-2 PMF による発生源要素別寄与濃度及び割合

Source Factor by PMF	Concentration				
	ug/m3	%			
LF7-4: Motor Vehicle	30.3	13.1			
LF7-1: Coal Combustion	146.3	63.6			
LF7-2: Refuse Incineration	3.6	1.6			
LF7-3: Cement	3.4	1.5			
LF7-7: Crustal	20.6	9.0			
LF7-5: Sulfate	10.9	4.8			
LF7-6: Nitrate	15.2	6.6			
Total	230.3	100.0			

出典: JICA 専門家チーム

割合について、小数第2位で四捨五入しているため、合計が一致していない。

表 7.2-3 因子別濃度及び凝縮性ダスト生成過程の割合

	石炭燃焼	自動車排 出ガス	土壌粒子	硫酸塩	硝酸塩	焼却炉	セメント
測定局での PM10 平均濃度 (CAQ)				161.34			
PMF での発生源別寄与割合 (A, %)	63.60	13.10	9.00	4.80	6.60	1.60	1.50
PMF による発生源別濃度 (Cs=CAQ*A/100, ug/m3)	102.61	21.14	14.52	7.74	10.65	2.58	2.42
CALPUFF による PM10 濃度計算結果 (C1, ug/m3)	58.51	2.23	31.81	5.15	2.81		
R=Cs/C1	1.754	9.469		1.503	3.791		

出典: JICA 専門家チーム

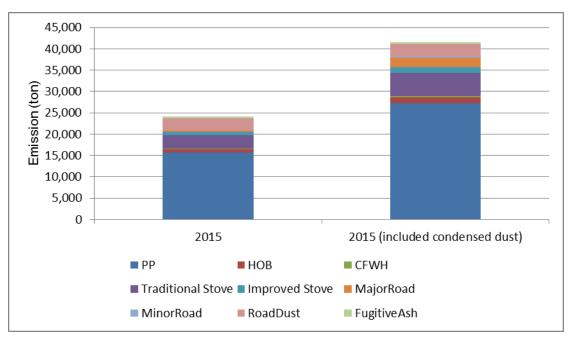
凝縮性ダストを考慮した発生源別 PM10 排出量を表 7.2-4、図 7.2-4 及び図 7.2-5 に示す。

表 7.2-4 凝縮性ダストの考慮前後の発生源別排出量 (2015年)

	PM10		SO)4	N	03	合計		
	考慮前	考慮後	考慮前	考慮後	考慮前	考慮後	考慮前	考慮後	
火力発電所	14,786.62	25,935.72	908.98	1,366.19	10.35	39.24	15,705.94	27,341.15	
НОВ	623.25	1,093.18	114.75	172.48	1.12	4.25	739.13	1,269.91	
CFWH	145.10	254.51	23.03	34.62	0.06	0.22	168.19	289.34	
家庭用小型ストーブ (旧型ストーブ)	3,007.86	5,275.78	104.01	156.32	2.41	9.12	3,114.27	5,441.23	
家庭用小型ストーブ (改良型ストーブ)	629.17	1,103.57	142.89	214.76	0.50	1.91	772.56	1,320.23	
自動車排出ガス (幹 線道路)	235.04	2,225.56	22.54	33.87	0.00	0.00	257.57	2,259.43	
自動車排出ガス (細 街路)	36.72	347.72	3.52	5.29	0.00	0.00	40.24	353.01	
道路巻上げ粉じん	2,860.51	2,860.51					2,860.51	2,860.51	
火力発電所灰飛散	409.64	409.64					409.64	409.64	
合計	22,733.90	39,506.18	1,319.71	1,983.53	14.44	54.74	24,068.05	41,544.44	

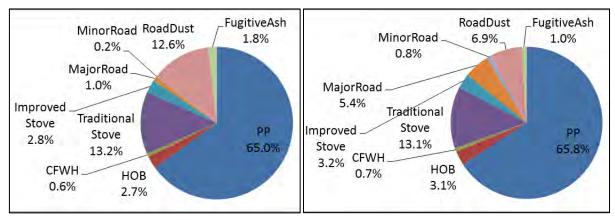
単位: トン

出典: JICA 専門家チーム



出典: JICA 専門家チーム

図 7.2-4 凝縮性ダストの考慮前後の発生源別排出量 (2015年)



出典: JICA 専門家チーム

図 7.2-5 凝縮性ダストの考慮前後の発生源別割合 (2015年)

7.3 PM10 濃度推計方法

凝縮性ダストを考慮した排出量を使った拡散計算のフローを図7.3-1に示す。

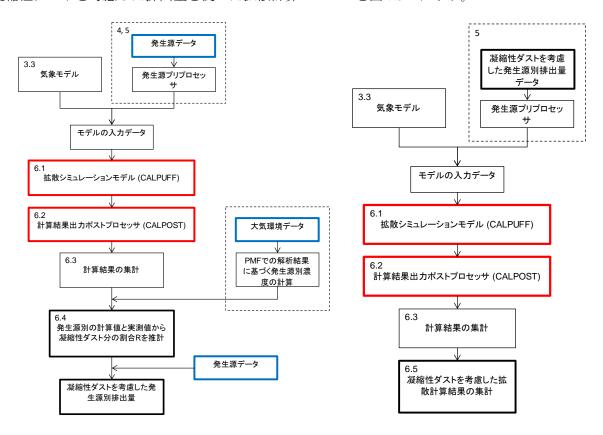


図 7.3-1 凝縮性ダストを考慮した排出量を使った拡散計算のフロー

1. 凝縮性ダスト生成過程を考慮した一次粒子生成過程 (1.a~1.d 及び 2.a~2.c)

上記に基づき、凝縮性ダスト生成過程を考慮した排出量を入力データとして CALPUFF での拡散計算を実施する。その際、一次粒子生成過程における SO4 及び NO3 排出量から計算された濃度は PM10 濃度として加える (図 7.3-2)。

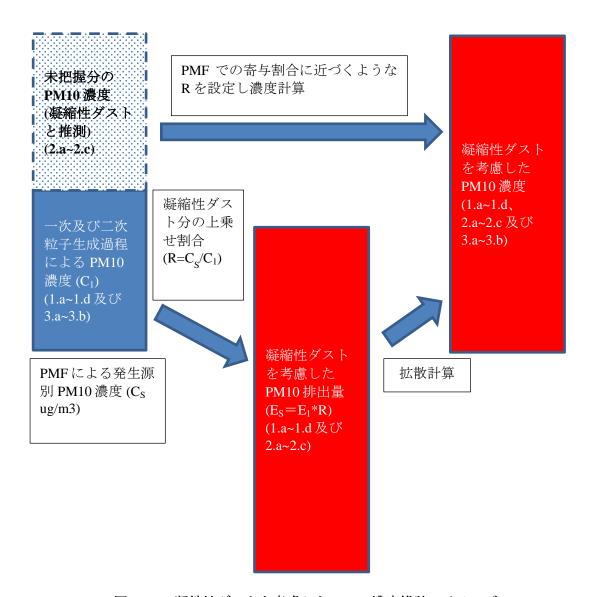


図 7.3-2 凝縮性ダストを考慮した PM10 濃度推計のイメージ

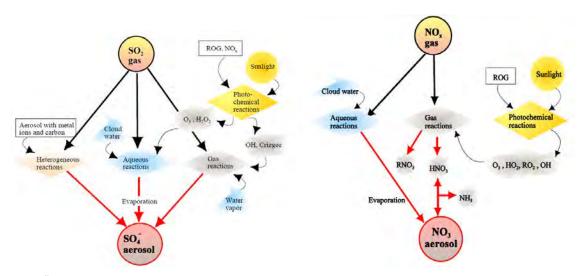
2. 化学反応による二次粒子生成過程 (3.a~3.b)

CALPUFF のモデルでは化学反応モデルとして、擬一次化学反応モデルが適用されている。この 化学反応モデルには、SO2→SO4生成過程、NOx→NO3及びHNO3生成過程が考慮されている。

SO2 が大気中に排出された後、大気中の水分との反応及びオゾンや過酸化水素等との反応により SO4 イオンが生成され、アンモニアと反応することで硫酸アンモニウムの粒子となる。

NOx が大気中に排出された後は 2 つの過程に分かれる。1 つ目は、大気中の水分と反応して NO3 が発生する過程である。2 つ目は、オゾンや光化学反応によって発生する OH 等のラジカルと反応し硝酸ガスが発生し、硝酸ガスとアンモニアの反応により硝酸アンモニウムが発生する過程である。なお、この反応は温度及び相対湿度に依存した可逆反応であるため、硝酸ガスと硝酸アンモニウムは平衡状態となる。

それぞれの生成過程のイメージを図 7.3-3 に示す。CALPUFF モデルにおいて、SO2 及び NOx 排出量を入力データとして用いて SO4、NO3 及び HNO3 濃度を計算し、PM10 濃度として加える。



出典: A User's Guide for the CALPUFF Dispersion Model (Ver 5)

図 7.3-3 SO4 及び NO3 の生成過程 (3.a 及び 3.b)

7.3.1 CALPUFF の発生源入力形式への変換

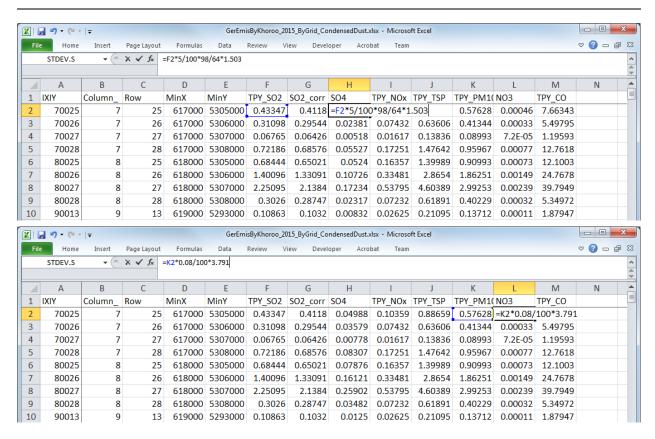
5 で作成した Excel ファイルを複製し別名で保存する。保存したファイルを開き、フィルター機能を解除する。

									×						
File	Home	Insert	Page Layou	t Formulas	Data	Review V	iew Devel	oper Acrol	bat Team					۵ 🕜 🗆	e e
Fr	rom Text So		Existing nnections	Refresh All *	Links Z	Sort Fi	Reap Iter Advan	ply	Remove	☑ Data Valid ∰ Consolida ₩ What-If Ar Tools	te T		Subtotal	Data An	
H2 • & \$\frac{1}{2} = \frac{1}{2} = \frac{1}{2} \fra															
Δ	Α	В	С	D	Е	F	G	Н	- 1	J	K	L	M	N	
1	IXIY	Column_	Row	MinX	MinY	TPY_SO2	SO2_corr	SO4	TPY_NOx	TPY_TSP	TPY_PM1	NO3	TPY_CO		Т
2	70025	7	25	617000	5305000	0.43347	0.4118	0.03319	0.10359	0.88659	0.57628	0.00046	7.66343		
3	70026	7	26	617000	5306000	0.31098	0.29544	0.02381	0.07432	0.63606	0.41344	0.00033	5.49795		
4	70027	7	27	7 617000	5307000	0.06765	0.06426	0.00518	0.01617	0.13836	0.08993	7.2E-05	1.19593		
5	70028	7	28	617000	5308000	0.72186	0.68576	0.05527	0.17251	1.47642	0.95967	0.00077	12.7618		
6	80025	8	25	618000	5305000	0.68444	0.65021	0.0524	0.16357	1.39989	0.90993	0.00073	12.1003		
7	80026	8	26	618000	5306000	1.40096	1.33091	0.10726	0.33481	2.8654	1.86251	0.00149	24.7678		
8	80027	8	27	618000	5307000	2.25095	2.1384	0.17234	0.53795	4.60389	2.99253	0.00239	39.7949		
9	80028	8	28	618000	5308000	0.3026	0.28747	0.02317	0.07232	0.61891	0.40229	0.00032	5.34972		
10	90013	9	13	619000	5293000	0.10863	0.1032	0.00832	0.02625	0.21095	0.13712	0.00011	1.87947		
.1	90026	9	26	619000	5306000	18.7668	17.8285	1.43683	5.00217	52.3754	34.0451	0.02724	417.398		
.2	90027	9	27	7 619000	5307000	8.20652	7.7962	0.62831	2.1632	22.2484	14.4619	0.01157	178.517		
.3	100012	10	12	620000	5292000	0.00964	0.00916	0.00074	0.00233	0.01872	0.01217	9.7E-06	0.16674		
L4	100013	10	13	620000	5293000	1.96901	1.87055	0.15075	0.47576	3.8235	2.48528	0.00199	34.0653		

SO4 及び NO3 排出量を計算する数式を修正する。すべての行に対して修正を反映させる。 SO4 排出量=

SO2 排出量*SO2 から SO4 への変換割合*96/64*凝縮性ダスト分の上乗せ割合 R NO3 排出量=

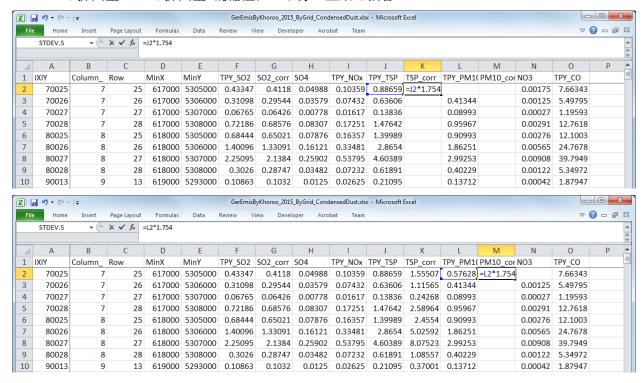
PM10排出量*成分分析による発生源別 NO3 寄与割合*凝縮性ダスト分の上乗せ割合 R



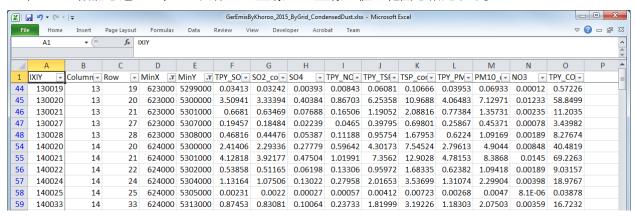
Dust (あるいは TSP)及び PM10 の列の右に 1 列追加し以下の計算をする。すべての行に対して計算結果を反映させる。

TSP 排出量=TSP 排出量*凝縮性ダスト分の上乗せ割合 R

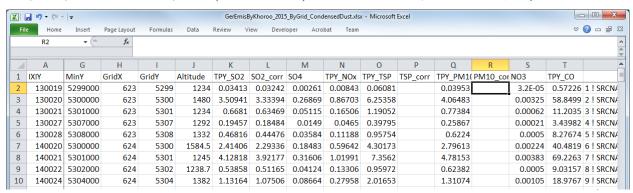
PM10排出量=PM10排出量*凝縮性ダスト分の上乗せ割合 R



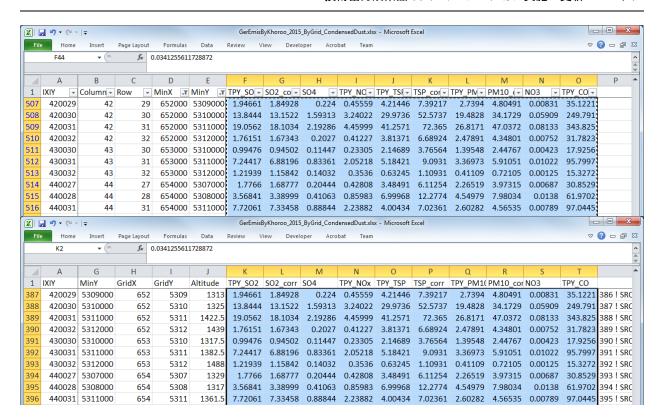
フィルター機能を追加し、5と同様に X 座標と Y 座標の値の範囲を指定する。



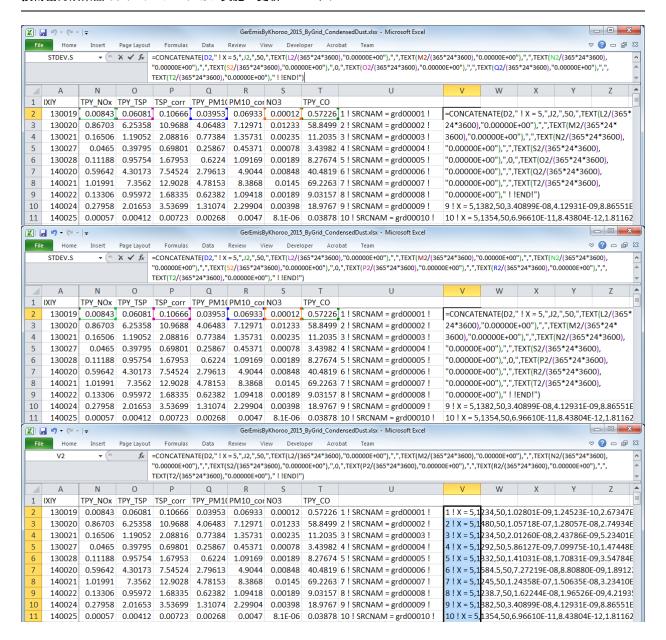
13b、14b、15b のシートで、Dust (あるいは TSP)及び PM10 の列の右に 1 列追加する。



上記計算シートから排出量の値をコピーし、13b、14b、15bのシートの該当部分に貼り付ける。



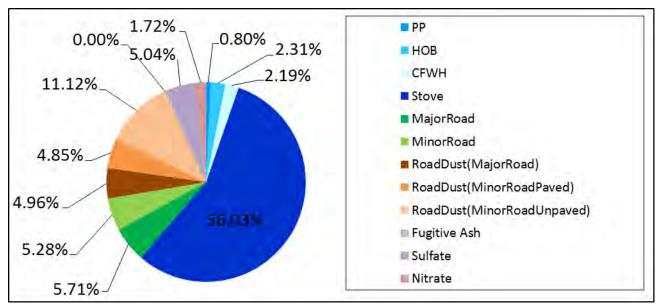
CALPUFF の入力ファイルに挿入する発生源情報の文字列を作成する列の数式について、TSP 及び PM10の排出量を指定したセルを、凝縮性ダストを考慮した値のセルに修正する。



7.3.2 凝縮性ダストを考慮した排出量を使った拡散計算の実施及び集計

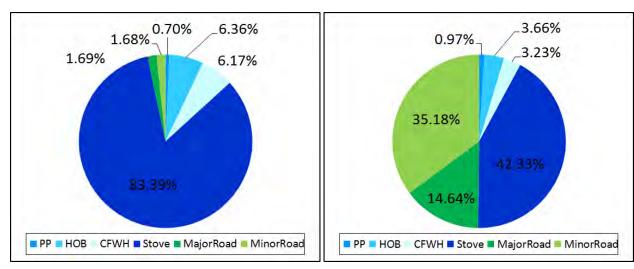
推計した排出量を用いて、上記5及び6.1~6.3を再度実施する。

凝縮性ダストを考慮した PM10 排出量を用いた拡散計算結果を図 7.3-4 に示す。また、Sulfate 及び Nitrate の発生源別割合を図 7.3-5 に示す。



出典: JICA 専門家チーム

図 7.3-4 CLEM-5 における発生源別濃度割合



出典: JICA 専門家チーム

図 7.3-5 CLEM-5 における Sulfate (左)及び Nitrate (右)の発生源別寄与割合

8 対策案の評価

8.1 対策案に基づく拡散計算の実施

対策案に基づく排出量推計及び拡散計算の実施のフローを図 8.1-1 に示す。凝縮性ダスト分を考慮した対策後の排出量を推計する際に、インベントリによる PM 排出量の減少と凝縮性ダスト分のPM 排出量の減少が比例するか否かで 2 つの計算方法が想定される。

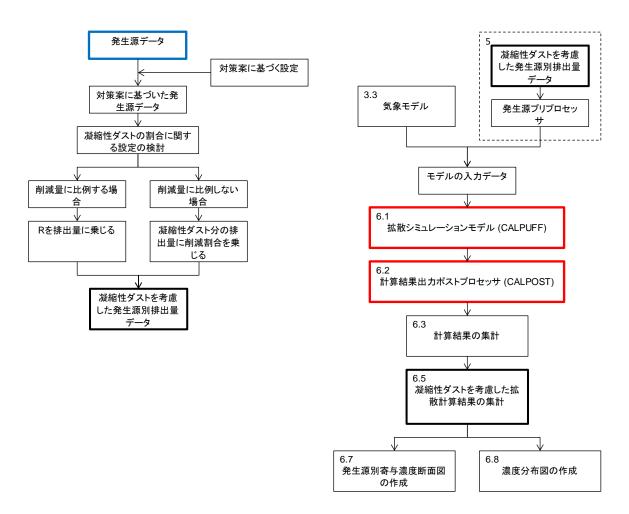


図 8.1-1 対策案に基づく排出量推計及び拡散計算の実施・評価のフロー

8.1.1 比例する場合

このケースでは、インベントリによる排出量の減少と同じ割合で凝縮性ダストが減少すると想定される。よって、以下の式にて凝縮性ダストを考慮した排出量を推計する。また、排出量推計のイメージを図 8.1-2 に示す。対策例として、高効率燃焼のボイラやストーブに置き換えられ、石炭使用量が減少すると見込まれるケースである。

 $Es' = E_1' * R$

Es': 対策後における凝縮性ダストを考慮した排出量

E₁': 対策後における一次粒子のみを考慮した排出量

R: 凝縮性ダスト分の上乗せ割合 (7.2.2 で計算された発生源別の値)

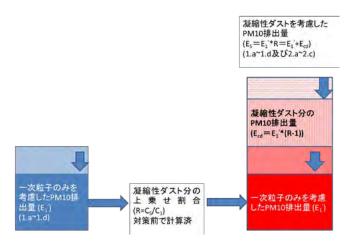


図 8.1-2 比例する場合の排出量推計イメージ

8.1.2 比例しない場合

このケースでは、インベントリによる排出量の減少とは別の要因によって凝縮性ダストの削減量が変わることが想定される。以下の式にて凝縮性ダストを考慮した排出量を推計する。また、排出量推計のイメージを図 8.1-3 に示す。対策例として、サイクロンの導入によって粒子状物質特に一次粒子の排出が削減されるが、凝縮性ダストの元となる揮発性物質などは減らないため、凝縮性ダスト分の排出量は対策前と同じと推測される。

$$Es' = E'_1 + E_{cd}$$
$$E_{cd} = E_1 * (R - 1) * X$$

Es': 対策後における凝縮性ダストを考慮した排出量

E₁': 対策後における一次粒子のみを考慮した排出量

Ecd: 対策後における凝縮性ダスト分の排出量

E₁: 対策前における一次粒子のみを考慮した排出量

R: 凝縮性ダスト分の上乗せ割合 (7.2.2 で計算された発生源別の値)

X: 凝縮性ダストの減少割合 (X=1: 凝縮性ダストが減らない、X=0: 凝縮性ダストがなくなる)

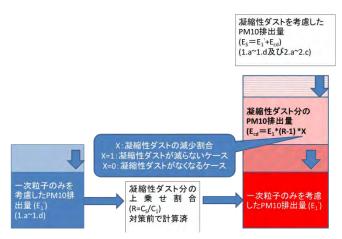


図8.1-3 比例しない場合の排出量推計イメージ

8.2 対策案の評価

対策案実施前後の排出量及び濃度 (最大濃度、平均濃度) を比較し、排出量及び濃度低減効果を検証する。一方、対策案を適用する地域を絞っている場合、適用地域での排出量及び濃度低減効果を検証すべきである。

また、人体への健康影響を評価するための指標として、濃度を人口で重みづけした暴露量 (Population Weighted Exposure; PWE) を計算する。PWE によって、汚染物質の影響を受ける人口の多寡を考慮した濃度を計算することができる。PWE の計算方法は WB (2011)¹²の手法を用いる。

$$PWE = \frac{\sum (C_i \times P_i)}{PT}$$

PWE: 計算範囲内での PWE (ug/m3)

Ci: グリッド i での濃度 (ug/m3)

Pii: グリッドi での人口

PT_i: 計算範囲内での総人口

更に、対策を実施するための費用に関する情報を入手し、その情報を基に対策を実施するための費用を推計する。推計した費用を排出量或いは濃度の削減量で割ることにより、1ton 或いは 1ug/m3削減するために係る費用を推計する。この額が小さいほど費用対効果が高いことが示される。

費用に関する情報は、対策を管轄する省庁などの行政機関、改良燃料や排ガス処理装置を作成する企業などにインタビューするなどして入手する。

これらの活用例として、排ガス処理装置の付いていない HOB にサイクロンを導入した場合の事例を示す。

(株) 数理計画

¹² Air Quality Analysis of Ulaanbaatar Improving Air Quality to Reduce Health Impacts, WB 2011

例 HOB対策:サイクロンの導入

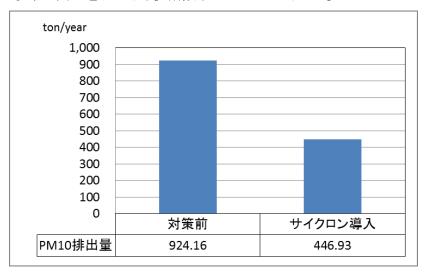
HOB の 2015 年インベントリ において、排ガス処理装置が設置されていないすべてのボイラ 164 基に対してサイクロンを導入した場合の排出量計算及び拡散計算を実施した。

1. 設定

サイクロンの除塵効率は 60%に設定し、サイクロンで捕集できるのは粒子状物質であることから、凝縮性ダストの量は対策前と同じと設定した。

2. 排出量の変化

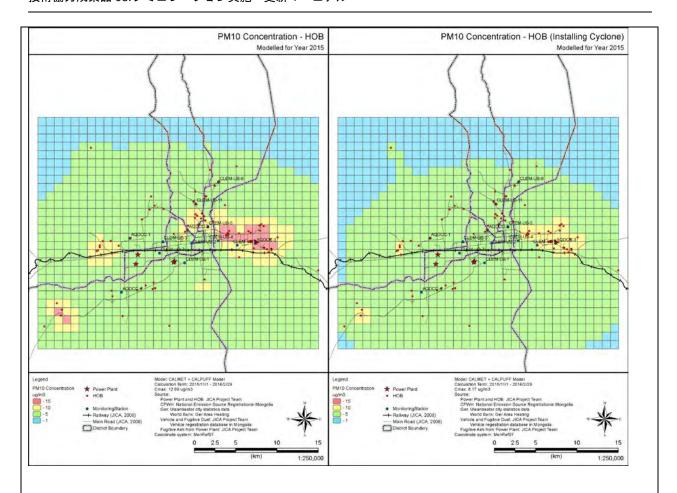
排出量の変化は以下の図の通りである。削減率は51.64%であった。



3. 濃度の変化

対策前後における PM10 濃度分布を図に示す。また、PM10 最大着地濃度及び PWE は以下の通りであった。

	対策前	対策後	低減量
最大着地濃度	12.99	8.17	4.72
PWE	4.85	3.10	1.76



4. 費用対効果

サイクロン未設置ボイラは比較的小容量のボイラが多いため、サイクロン 1 台設置費用は 0.4 及び 0.7MW 用の価格を単純平均した値 (5,940,000Tg) を用いた。

5,940,000Tg *164 基/ 477.23ton = 2,041,000 Tg/ton